

2023ハルビ  
支援サイトCG集

+

ムチ宮ハルビ

困惑



総集編

ろいやるびっち

成年  
コミック

漫画32ページ+CGイラスト578枚



ムチ宮ハルビの困惑 R18 ©ろいやるびっち





団長

ハニエの  
新天團  
怒

ろいやるびっち

成年  
コミック

の



涼宮ハルヒの  
身体がムチムチに  
なった——  
何を言ってるのか  
俺にもわからんが  
まるで二十歳に  
なったような……

おい、いったい  
どうなってんだ  
古泉……!

こちらには  
閉鎖空間が  
発生しています

そして——  
神人の体型も  
やはりムチムチに  
なっています

心当たりは  
ありませんか？

……昨日の夜  
オナニーに使った  
エロ同人誌の体型に  
すごく似てる

それですね

涼宮さんの  
潜在意識が  
それを感知  
したのでしよう

大丈夫——  
その文芸部室を  
時間的に隔離、  
凍結する

涼宮ハルヒの  
心理的抑圧が  
解消されるとい  
う条件を満たす  
まで脱出できな  
くした

長門!?  
それは  
どういう

涼宮ハルヒが  
セックスに  
満足するまで  
出られない部屋

そしてムチムチな  
閉鎖空間を  
生み出し、世界を  
ムチムチに  
改変しようとしている

勘弁  
してくれ

ちくしょう  
やるしかねえ

あのさ……  
キョン

あ、あたしの  
身体って  
こんな感じ  
だったっけ……？

な、なんか  
その……  
ムチムチ……  
してるような……？



ムチムチ

ムチムチ

涼宮ハルヒは  
急激な自分の  
身体改変に  
戸惑っている

同時にこの部室内は  
性的行為が許容される  
特殊空間になっている

この混沌状態を  
利用することを推奨  
強引に攻めるべき

要は、何やっても  
怒られないって  
ことか……

ど、どう思う？

んっ……  
そ、そうだな  
調べるか……





と、とにかく  
なんか身体が  
おかしい気が  
するのよ……

ムキ

ふーっ

ふーっ？

あらためて  
見るとすごい  
体型だな……



ムキ

ムキ

なんか服が  
キツイような  
気がするし  
成長期？  
にしても  
変よね……



触って……  
確かめて  
みるか……？

え？

スカートが短すぎて  
ほぼパンツが  
出てるのも  
エロすぎる……

ムキ

ちよ、ちよ、  
ちよつと!?

!?

えっ?  
えええ……?  
いきなり  
そういう感じ?

ハルヒ、直接  
触らせてくれ  
服の上からじゃ  
わからん!

んー……  
もっと詳しく  
調べないと  
わからないな……

わ、分かったわよ  
ぬ、脱げばいいの?





おお……

ちゃ……  
ちゃんとして  
調べなさいよ

乳首がマジで  
でっかいな……

あ、こらっ  
んっ……♡

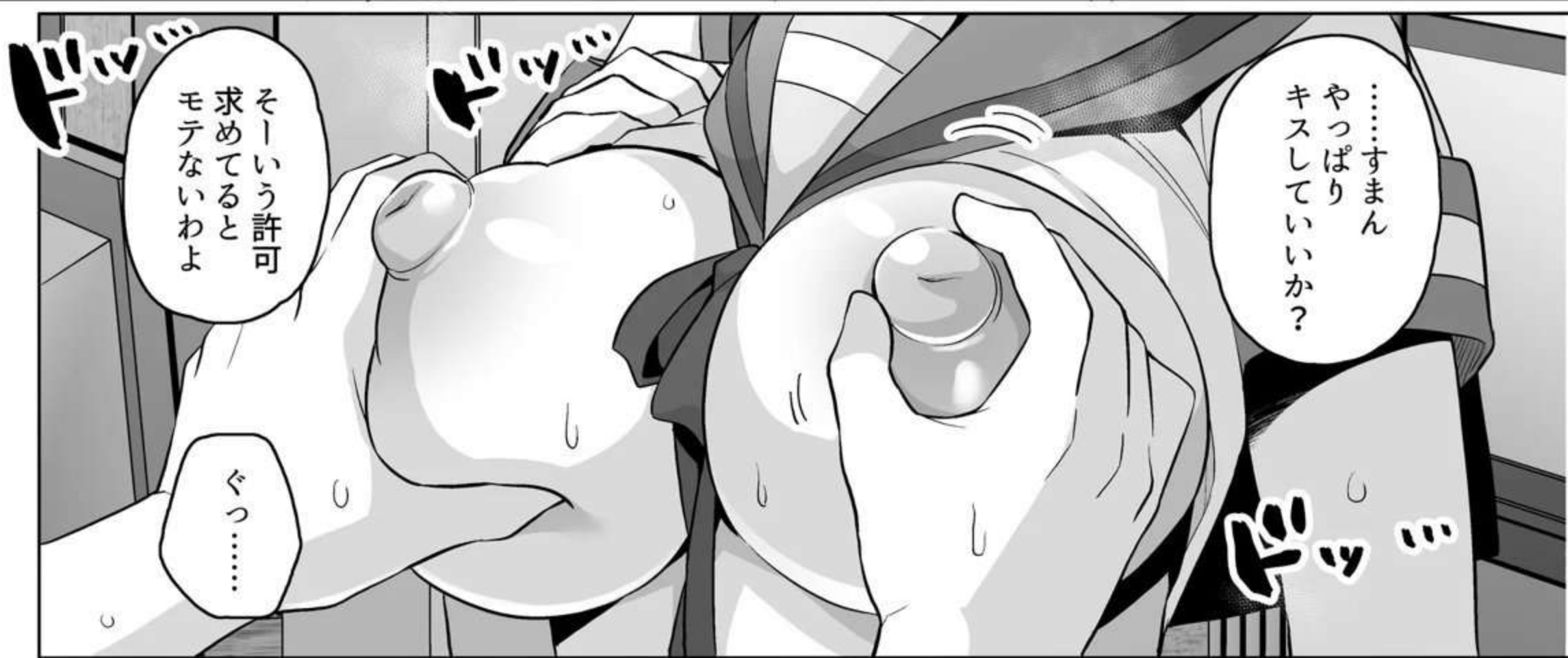
ばーん

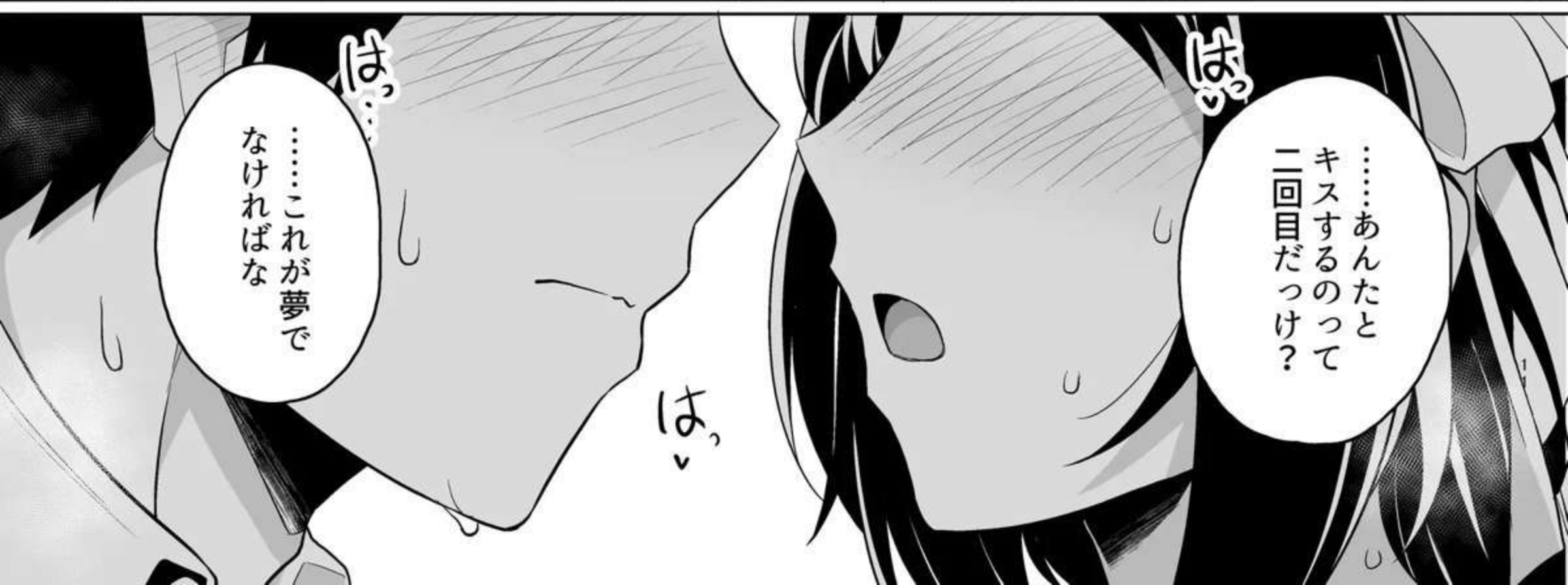


こんな風に  
身体を触っても  
抵抗しないどころか  
ちよつと嬉しそうに  
しているのが  
エロすぎる

あーいかん  
興奮するなこれ……  
ハルヒの身体が  
ムツチムチに  
なってるのも  
そうなんだが









4ラ

何が？

……  
キスだけで  
いいわけ？

ふっ



……  
こっちも、  
どうなってるか  
確かめたいん  
じゃないの？

ざい

っ……！

……確かめる  
だけじゃ  
すまなくなるぞ



へえ？  
どうしたいわけ？  
面白そうじゃない

びびり

んん……！

ドゥッ...

こんなえぐい  
食い込みの  
パンツ履いて  
いたんだな

そ、そうだった  
かしら……？

ふ、普段から  
こんなエッチなの  
履いてたかな？

は、履いてた  
ような気も  
するけど――

いやこんなエロい  
パンツ履いてるの  
エロ漫画のキャラ  
ぐらいだろう――

昨日俺が読んだ  
エロ同人誌の  
影響だな……

弾力が  
すごい……

んっ♡

ドゥッ...

ふー

ふー

ドゥッ...

ムキムキ

ドゥッ...

ムキ

ムキ

ドゥッ...

ぐっ

ドゥッ...





でっか!  
でかすぎない?

そうか?

おっ

ハルヒに  
フェラされる  
日が来るとは……



乱暴には  
しないでくれ……

やり方  
わかんないけど  
好きに舐めて  
いいわけ?

はっ

はっ





こんなの  
ちやんとアソコに  
入るのかしら……



うお……



すげえ……  
ハルヒの喉に  
入っていく……



んんっ♡  
っ…

じゅっ♡

ハルヒにフェラ  
されてるってだけで  
興奮がヤバいな……

じゅっ♡

とっ…



はっ♡

はっ♡

とっ♡

エロい顔で  
しゃぶり  
やがって……



くっ……  
吸われる！

じゅっ♡



すっげ……  
ちんこが  
持っていていられる  
っ……  
ハルヒっ  
タンマ……



むっ

腰  
逃げるなっ♡

おいばか  
出るって!  
出ちゃうっ



ハルヒっ……  
出るっ……!!

ドク  
ン

ハルヒっ  
ハルヒっ  
ハルヒっ



一本目は  
あたしの  
勝ちね？

はあ……  
はあ……

ルールが  
わからん上  
に  
勝負に  
なったんだ？

はっ

はっ

ゾク  
ゾク

はっ  
はっ

はっ

おそろく  
涼宮ハルヒがその  
勝負に満足すれば  
閉鎖空間も解消される

それでこの異変も  
解決するって  
ことか……

不確定要素の  
懸念はある  
でも多分  
そう

水飲む？

ふは

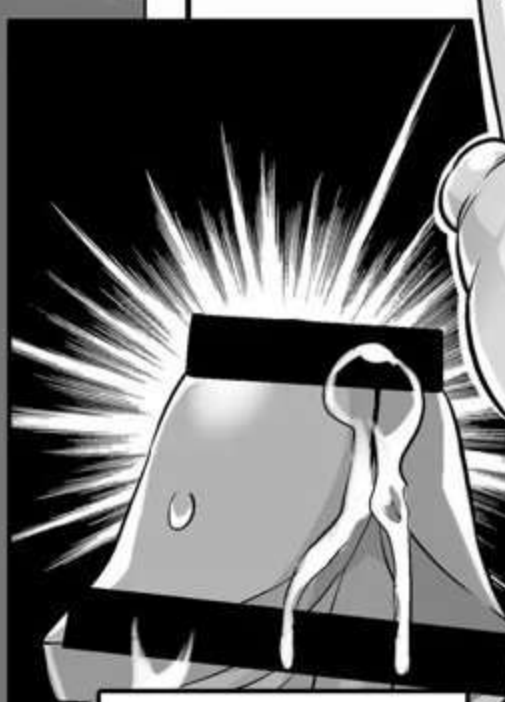
この性欲の塊  
みたいな姿の  
ハルヒが満足  
するまでか

精液って  
変なあじ……

ゴクゴク

まったく……  
昨日オナニー  
するんじゃ  
なかったぜ

もってくれよ  
俺の精力！





はっ...  
んっ...  
はっ...  
んっ...  
はっ...  
んっ...

んっ...  
んっ...  
んっ...  
んっ...  
んっ...  
んっ...



よし  
入れるわよ  
...  
...



わ、わかんない  
けどっ...  
なんかっ...  
すっごいっ...!

だ、大丈夫か？  
ハルヒ  
いきなり入れて  
痛くないか？



あんだこそ  
どうなのよ……!!  
あたしとエッチした  
感想は?

興奮しすぎて  
頭おかしく  
なりそうだよ

興奮?  
それだけ?  
他には?

ぐっ……  
じ、人生で一番  
好きになった  
相手と、こんな風  
なれて嬉しい!



あはっ♡

ずっ♡  
ずっ♡

大輪の花のような  
顔で笑うハルヒ

ハルヒのこの顔を  
もう一度——  
いや、何度でも  
見たい……

はっ

はっ

ズル

ズル

はま

ど

ズル

あ

この世界ではなく、  
現実世界で、だ  
そのためには——

あ

ズル

ズル

ズル

ズル







あつあつ  
同じ気持ち  
だけど

都合よすぎるし  
多分夢ね、これ

あつあつ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ



あたしたち二人が  
やりたいこと、  
全部やるっか

ねえ、これが夢なら、  
目が覚める前に――

はっ

はっ

はっ

はっ



後ろから……  
バックって  
やつか

こうして尻を  
突き出していると  
アソコが丸見えで  
すごいな……

ね♥  
エツロいでしょ  
なんだか  
交尾! って  
感じで……♥

ドゥッ

ドゥッ



はい、どうぞ  
入ってきて  
いいわよー♥

はー

ハルヒのケツ穴が  
ひくついてて  
そっちもエロい  
が  
さすがに  
そっちは怒られそう  
なのでやめておこう

はー

はー

はー

はー



力抜いて……

くっ……！

あっ♡

うわ……  
これヤバイ  
めちやくちや  
気持ちいいぞ

あっ♡

あ、あたし  
もっ……♡



これっ……  
すっごい♥  
お腹の中まで  
かき回されてるっ  
すっごっ……  
気持ちいいっ♥

赤ちゃん作る  
場所にまで  
届いちやうっ♥

おいっ……  
変なこと言うと  
暴発しそうに  
なるだろっ……



えー、いいじゃない  
出しちゃっても♥

あたしと子作り  
したくないの？

中出しして  
赤ちゃんつくる？

……  
うん



ねっ♡  
キョン、絶対  
抜かないでねっ  
お腹の中に  
全部出さないっ♡  
命令だからっ♡

キョンの出す  
赤ちゃんの素  
全部欲しいっ♡

膣内を出してっ♡  
中出ししてっ♡



あつあつ♡♡

出たあつ♡♡  
キヨンの♡♡  
せーしっ♡♡

あつあつ♡♡

あつあつ♡♡





んんんん……

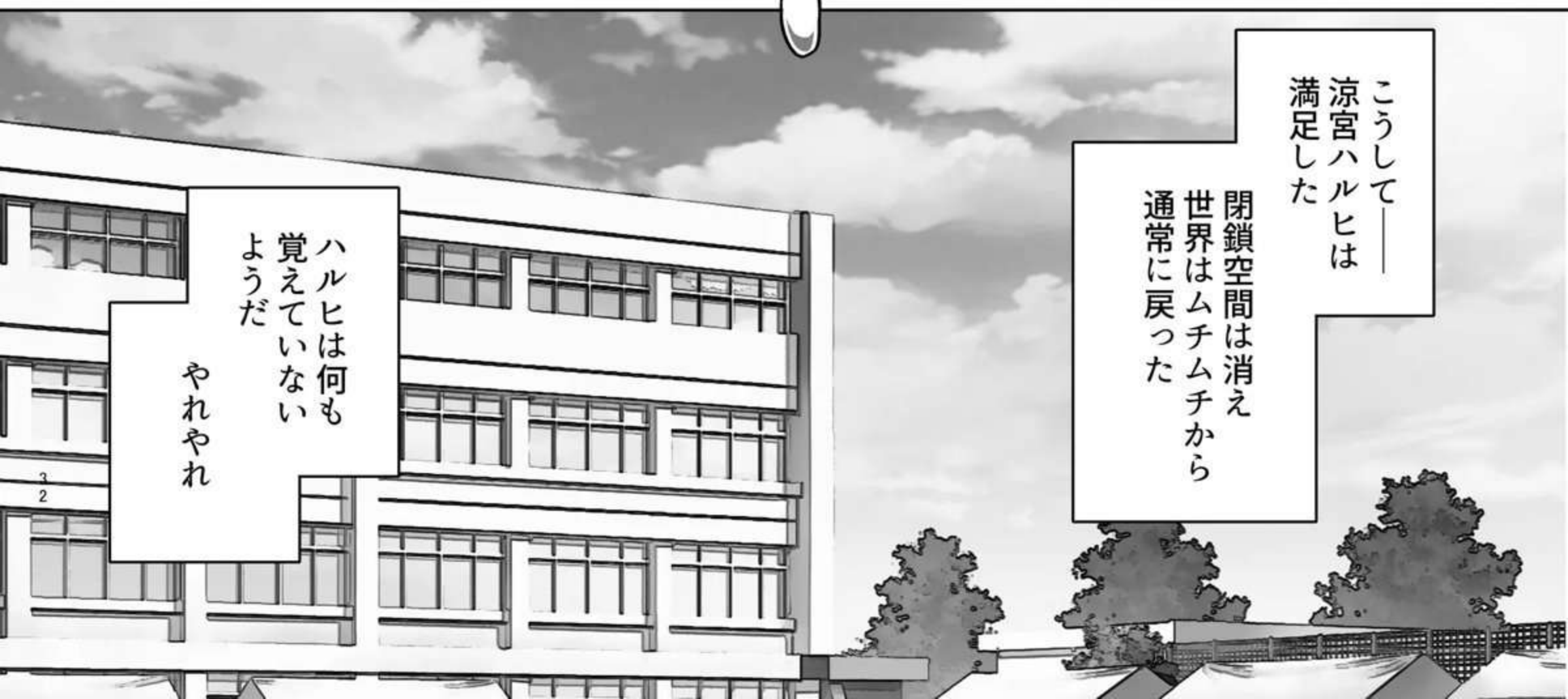
出したね……  
キョン……♡  
お腹の奥……

は

とろ……

赤ちゃん……  
できるかな♡

それはまた  
現実でな



こうして——  
涼宮ハルヒは  
満足した

閉鎖空間は消え  
世界はムチムチから  
通常に戻った

ハルヒは何も  
覚えていない  
ようだ

やれやれ



なに？

ええ……  
ですが、僕は  
まだ一つ  
気がかりな  
ことがあります

長門さんの  
言っていた  
不確定要素とは  
一体――



世界中がムチムチに  
ならなくてよかった  
ああいうのは  
エロ漫画の中  
だけで十分だ



ながっ……  
長門オツ!!



考えすぎだろ  
おう、長門……

カチヤ



……  
ユニーク



な……

はっ

読んでいただき  
ありがとうございました！  
久々のハルヒ漫画ですが  
お楽しみいただけましたら  
幸いです。

はっち。

ゲストイラスト：  
オコメットさん

Fantia、Fanbox  
Patreonやっています。  
ハルヒのイラストなど  
日々投稿していますので  
応援よろしく  
お願いいたします！

ムチ宮ハルヒの困惑  
発行日：2023/12/31  
発行者：haruhisky  
発行元：ろいやるびっち  
表紙装丁：DDW 同人  
デザインワークス様  
特別支援者：thar様  
印刷所：日光企画  
ゲスト：オコメットさん  
Master117さん

ホンツト、変な夢ね……。  
【バニーガールコスで  
ボテ孕むまで絶対に  
出られない部屋】だって。  
馬ッ鹿みたい！

むー

その夢の原因は、  
おそらくお前の性的  
欲求不満なんだが……。  
まあここは黙っておこう。

キッ

バニーコスでボテまで  
出られない部屋  
初夢

まあいいわ。  
こうなったらさっさと  
セックスするわよ！  
んー、このコス、ちよつと  
脱ぎにくいわね……

夢だと思っっているせいで  
切り替えがはやいな……  
おい、夢の中なら服も  
自由に変えられるんじゃないか？

ちよっ……  
何このニツプレスと  
乳首のデカさ……  
あなた、こんなサイズが  
好みなわけ？

はーる

んっ♡

黙秘権を行使するぞ。  
とはいえ、本当に俺の好み  
が反映されているのか……？  
たしかにエロいが……

まいつか。  
でもこの一瞬で服が  
変わるの便利ね！  
ほらほら、次はどんな  
姿にしたいの？

ドキ

ドキ

どうやら俺が決めていい  
ことになったらしい。  
じゃあ、もつと布地を  
少なくして、乳首も見たいぞ。

きゃっ

おおっ……!!  
へー、こうなるんだ。  
すっごい食い込み。  
アソコの毛もボーボー  
だけど、いいの？

普段はもっと  
整えているのか？  
それはそれで興味あるが……  
よし、そろそろ生で  
アソコを見せてもらおうか

ドキ

ドキ

ドキ

ゆさっ

キョウ

ドキ



あーあ、全部脱いじやった。  
で、するんでしょ？  
孕ませセックス♥  
もうガチガチにボツキ  
してるものね。

ニヤニヤ

ニヤニヤ

ドキ

ドキ

トロ

ドキ

ドキ

いやいや、興奮してるのは  
お互い様だろ……。  
自分だってマンコを  
トロトロに濡らして……。  
いかん、余計に勃つなこれ。

トロ

じゅわ

あー……  
あの、これ一応あたしの  
初体験なんだけど  
そういうの気にする？  
夢の中でしちゃって  
いいのかな？

俺も初めてだから  
おあいこってことでいいよ。  
まあその、なんだ。  
現実の方で初体験  
やり直せばいいだろ……



っ……♡  
あー、入っちゃった。  
さすがに夢の中だと  
痛くないのね。  
あ、でも気持ち良さは  
ちゃんとあるみたい♡

っ……！  
こっちは気持ちいいどころか  
射精を我慢するので  
精一杯だぞ……！  
めちやくちや締め付けてくる



あつ♥ あつ♥  
ねえっ……♥ 今っ……  
気が付いたんだけどっ……  
「ボテ孕むまで」って  
けっこう長くないっ……?

くっ……!!  
あえて考えないように  
していたのにつ……!!  
ええい、こうなりやヤケだ  
ボテ孕めっハルヒっ……!!  
一発でボテ腹になれ……!!





ほい!

!?

んっ

.....  
.....  
マジツ?

※この後すぐ、  
二人とも下着が  
ぐちよぬれになった  
状態で目が覚めた。

.....ああ  
.....マジみたいだ




























いらっしやい。  
バニーガール専門店  
【RB】にようこそ。

お客さん、ここ来るの  
はじめてでしょ。  
あたしが案内するわね！  
うちの店、カワイイ娘  
揃ってるわよ。

バニー風俗の  
ハムレット



「みんな君みたいに  
可愛いのか？」  
って？

あはは、ありがと！  
そうね、一番のオススメは  
このあたし自身ね！  
今日はこれから休憩だけど  
次に来た時、指名してね

あれ、さっきの  
お客さんじゃない  
……まだ誰も  
指名してないの？

ぷるんっ♡

え、指名するため  
あたしの休憩が  
終わるのを  
ずっと待ってたわけ？

しゃん  
しゃん

……ふーん、そう  
じゃあ、サービス  
してあげなきゃね？



んっ

いいわ  
限界ギリツギリまで  
すごいHなことして  
あげるから——  
覚悟しなさいよね♥

はっ  
るんっ

んっ  
んっ

ふ、わ、わ、わ

おまたせー♥  
あら、どうしたの？  
ひよっとして裸で  
出てくるのを  
期待してた？

ゆき♥

ゆき♥

ふふ、お客さん、  
もう待ちきれない  
って顔してるわね……  
いいわ、見せてあげる♥

っジャーン!  
どお?あたしの身体  
すっごいでしょ♡  
最近またデカく  
なったのよね!

ドキ♡

ドキ♡

でも、気持ち良さは  
もっとすごいから  
今からいっぱい  
味わってみてね……♡

お  
る  
ん♡

クヌクヌ♡

ドキ♡

ん♡

ドキ♡

あ♡

あはは、すっごい  
熱心に揉むじゃない♡  
男の人って  
ほんとオツパイが  
好きよね！

もみ♡

もみ♡

びん♡

びん♡

びん♡

じゅん♡

ん♡

アソコも胸と  
同じぐらい気持ち  
いいんだから……♡  
そのビンビンにしてる  
オチンポ、そろそろ  
入れたいでしょ？



っ……しよ、つと  
ほら、入っちゃった  
どお？  
気持ちいい？

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

そう、そんなに  
気持ちいいんだ……  
良かった♡  
へへ、でもここから  
もっとすごいわよ！

はっ



がに♡

す♡ん♡

ほらっ♡  
ほらっ♡♡ほらっ♡  
いっぱい腰  
動かしてあげる♡

がに♡

おちんちん、  
あたしのおまんこで  
ゴシゴシされて  
気持ちいいでしょ？

♡ちゅ♡  
♡ちゅ♡

♡ちゅ♡

がに♡



ぱんっ

ぱんっ

ぱんっ

ぱんっ

あっ…♡  
んっ♡ あっ♡  
あっ…♡ あんっ♡  
あたしも気持ちいい♡

あーん♡  
おまんこの奥まで  
ガンガン突かれ  
ちやってるっ…♡  
あっ♡いきそうっ…



ピクピク

あっ…♡  
はあんっ…あっ♡  
いっくっ…♡  
せーし、出てるっ♡

〜♡

ピクピク

あ、あ…♡  
えへへ…  
いっぱい、膣出し  
されちゃった…♡

ピクピク



はっ……  
はあっ……♥  
いっぱい出したわね  
ふふ、気持ち良かった？

はっ♡

はっ♡

もちろん、あたしも  
気持ち良かったわよ！  
よし、それじゃ  
一緒にシャワー  
浴びよっか♥

はっ♡

はっ♡



ヤァァ


アァァ..

あー、また  
勃起してる♥  
お客さん、あたしが  
身体洗っているの見て  
ムラムラきちゃった？

♡♡♡♡♡

しょうがないなあ……  
しゃぶってスツキリ  
させてあげる♥  
お店にはナイショ  
だからね……？





お疲れ様♥  
これ名刺ね。  
本指名する  
ときは教えて。  
予約しておくから♥

バニー専門店【RB】は  
お客様のご来店を  
お待ちしております。

……じゃ、またね♥

完

































〇〇〇

いらっしやいませ♡  
バニー専門風俗店  
【RB】へ  
ようこそ——つて


あっ♡

ゆきん♡

バニー風俗の  
ハムレット♡

この間指名くれた  
お客さんじゃない！  
もう来てくれたの？





当店では、お客様の  
好みに合う、様々な  
バニーガール嬢を  
取り揃えております！

ん、でも！  
もちろん、お客さんは  
私を指名するでしょ？  
前回、あんなに気持ち  
良かったんだもの！

うん、よろしい！  
ご指名ありがとうございます！  
へへ、任せて♡

ニッコ♡

ニッコ♡

ニッコ♡

ニッコ♡

ニッコ♡

今日も、お客さんには  
おちんちんが気持ち良さで  
おかしくなっちゃうぐらい  
ご奉仕してあげるから♡

ニッコ♡



じゃんっ！  
逆バニーに着替えて  
来たわよっ！  
にひひ、どう？エロい？

おっ  
おっ  
おっ

今日はこの格好のまま  
いっっぱい気持ちいい  
ことしてあげるから、  
覚悟してなさいっ！

おっ  
おっ  
おっ

おっ  
おっ  
おっ

ニツプレスもパンツも  
邪魔ね、取っちゃおっと。  
……ふーん、お客さんも  
もうすっかりその気ね♥

ドキ

ぽん

ドキ

ぽん

うん、おちんちんも  
準備バツチリみたいだし  
今日はすぐプレイルームに  
行っちゃおっか♥

ムクムク……

期待しててね♡  
今日はこの胸で  
おちんちん挟んで  
あげる……♡

ドキ



ドキ

ぬいちゃう♡

ぬいちゃう♡

むっちむちの  
胸の肉の間で  
ぬるぬるすると  
おちんちん  
気持ちいいわよ♡

くっく

Co

あはは、そうよね！  
まず手でおっぱい  
存分に触りたい  
わよねえ……♡

もっちろん、いいわよ！  
おっぱいもっとおっっぱい  
えへ、もっとおっっぱい  
大きくなっっちゃうかも♡

ドキ  
♡

ゾク

ゾク

ドキ  
♡

もみ

もみ

もみ

もみ

もみ

もみ

もみ

もみ

オシッコ

はい、じゃあパイズリね♡  
ふふ、どう?どう?  
気持ちいい?  
あったかいでしょ♡

ズク  
ズク  
ズク  
ズク  
ズク

おっぱい♡

おっぱい♡

おっぱい♡

あ、ほら胸の中で  
おちんちんがピクツって  
なったわよ♡  
気持ちいいんでしょ?  
ほら、ほーらあ♡

おっぱい♡

おっぱい♡

いゅっ♡

……なんだかパイズリ  
してたらムラムラ  
してきちゃった。  
ね、そこ立って！

いゅっ♡  
いゅっ♡

いゅっ♡  
いゅっ♡  
いゅっ♡

いゅっ♡  
いゅっ♡

いゅっ♡  
いゅっ♡

んむっ……♡  
ん……ふっ♡  
おいひ……んーっ♡  
ちゅぶっ……♡  
おちんちんおいひ♡  
♡

いゅっ♡  
いゅっ♡

はーっ…♡  
はーっ…♡  
あーん、おちんちん  
すきい…♡♡ 美味し♡

はーっ…♡

♡♡♡

♡♡♡

はーっ…♡♡♡

ねえ、もう一発目の  
射精しそうなんでしょ？  
このまま口で出したい？  
飲んであげてもいいのよ♡  
それとも—



それとも、おまんこに  
射精する？  
胸まんこに出したい？  
いひひ、選んでいいわよ！

ニマ

ドキ

おーやっ

びん

はあ

どっちに入れても  
絶っ……対気持ちよく  
射精できるわよ……  
今までの人生で一番  
濃いのが出ちやうかも

ドキ

ふーっ

クス

ドキ

ふーっ





はっ♡

あー、やっぱりおまんこ  
なんだあ……♡  
男の人って結局  
生殖本能ってやつ？

ズ

はっ♡

っ

っ♡

最後はおまんこに  
膣出しして孕ませるのが  
一番快感ってところ、  
あるわよねー……♡

っ♡

っ♡



あっ♡ やあん♡  
おっぱい敏感に  
なってるからあ  
んっ♡

なーに？  
おまんこに生ハメ  
セックスしてるくせに、  
あたしの胸まんこに  
パイズリ射精するのに  
未練があるわけ？

でもダメ♥  
今日はもうおまんこ  
膣出しの気分なの！  
生膣出ししか  
許さないんだからっ♥

はっ

はっ

はっ

んんん

んんん

んんん

あたしの爆乳胸まんこに  
びゅーっ♥びゅーっ♥  
っていっぱい射精するのは  
次に指名するときまで  
お預けだからね♥

んんん

んんん

はーっ……  
気持ち良かったわね！  
もうアソコの中  
どろっどろ……

キラ  
キラ

も  
いゅ♡

も  
いゅ♡

も  
いゅ♡

あはは、今日はすっごく  
胸揉むじゃない。  
そんなにパイズリ射精に  
未練があるわけ？

エロ

あら？  
なーんかおまんこに  
当たってるケド……？  
ふふふ、興奮しちゃった？

ムラ  
ムラ

ムラ



ムラ  
ムラ  
ムラ

ムラ

ねえ、言ったでしょ？  
「生腫出ししか許さない」  
——っ♥  
……お店にはナイショ  
だから、ね？

もみ

もみ

フェイク

へへ、ほんとはこの衣装  
店内限定なんだけど—  
お客さん常連さんにな  
ったわけだし、ね♥

はっ  
るんっ

はい、名刺っ！  
またあたしのこと  
抱きたくなったら  
いつでも予約してね！  
待ってるからっ♥

完









































…っ  
ばあーんっ!!

おん

はいっ、  
パンツ見たー！  
おじさんっ  
罰金ねっ♥



満面の笑みで  
スカートをたくし上げ  
小さな布地の水色の  
パンツを見せつけてくる  
女子高生

キラ  
キラ

メ  
メ

メ  
メ

ムキ  
ムキ

ムキ  
ムキ


冷汗が流れる。  
ひと気のない駅の  
階段だから良かったが  
……あやうく痴漢  
扱いされるところだ。

あら  
チカンもパパ活も  
似たようなもんでしょ。  
若い女におじさんが  
スケベなことするの  
どっちも違法だし♥

ニヤニヤ

彼女はニヤニヤと  
笑いながら、  
思いつきたくし上げた  
スカートを  
ヒラヒラ振って見せる。

フリフリ



彼女の名前は  
涼宮ハルヒというらしい。  
まるでアニメのキャラの  
ような名前だが、きつと  
本名ではないのだろう。

彼女とはこれまで  
何回もパパ活をしている。  
段々態度が大きくなり  
最近ではこんな風に  
からかってくるのだ。

人、来ないわよね…。  
んじゃ、おじさん  
ちよつとだけ  
サービスね♡

下キ、  
下キ、

No…

ズルンッ

彼女はヒソヒソ声で  
ささやくと、おもむろに  
パンツを膝まで下ろした。  
アソコの割れ目が  
目に飛び込んでくる。

あまりの光景に  
フリーズしてしまおう。  
綺麗な割れ目に  
ちよろつと毛が  
生えている。

ドキッ

ドキッ

トロッ

あろうことか、  
ほんのり愛液が  
垂れているようにも  
見える――。

しゃっ…  
写真っ！  
写真撮らせて——

また  
ふた

突然目の前に現れた  
女子高生の生マンコに  
あわててスマホを  
取り出したが——

だるめっ!  
おしまいっ♡  
じやいつものラブホで  
待ち合わせね!

パチン

サツ

55

彼女はそういうと  
サツとパンツをはき、  
顔を赤くしたまま  
走っていった。  
呆然とした私を残して。

撮ることはできなかったが  
今から数十分後には  
あの女子高生マンコに  
好きなだけ自分のチンコを  
入れることができる。

ムラッ


ムラッ

ムラッ

ムラッ

いや、それだけじゃない。  
胸も、尻も、唇も——  
全てを……そう考えると、  
パンツの中でガチガチに  
勃起が止まらなかった。





ラブホでは  
絶対に撮影してやる…。  
撮影だけじゃない。

ムラッ

ムラッ


ムラッ

ムラッ

あの柔らかかそうな  
若い娘のマン肉を  
とろっとろになるまで  
チンポで突いて  
かき回してやる——

# 涼宮ルビルの ルビル話





いつも使っている  
ラブホテルに到着した。  
二人で一緒に入るのは  
色々危険なので、  
別々に入っている。

もうすぐ……  
もうすぐ女子高生と  
セックスできる……。  
それも、あんな  
美少女と——。

おそーい、罰金！  
暇で暇で、  
そろそろ帰ろうかと  
すら思ってたわよ。

彼女はベッドで  
ゴロゴロしていた。  
ルーズソックスと  
短いスカートの上に  
パンツがチラチラと  
見えている。

ちらり

早速だけど  
撮ってもいいかな？  
パンツとか、色々。

んー。  
顔はなしね。  
ネットにアップも  
ナシ。あと——

フッ

分かってるよ。  
「一枚につき罰金百円」  
だろう？もちろん  
ちゃんと払うよ。

「ALL」

うん、よしよし♡  
それならいいわよ！  
あとで一緒に確認  
するからね。

はつきり言つて  
大人には格安すぎる。  
だが、彼女もそれは  
分かっている。「罰金」は  
ちよつとした遊びなのだ。



カシヤ

あたし、そうやって  
なんでも写真撮る感覚、  
よくわかんないのよね…。  
料理とかSNSに上げたり。  
食べることの方が  
大事じゃない？

カシヤ

友達とかと写真を  
撮るのはわかるけど――  
食べ物の写真なんて  
SNSに残しても  
仕方ないと思うのよね。

彼女はSNSには  
あまり関心がないようだ。  
自分もこの大切な画像を  
アップする気など毛頭ない。  
それに――

ズン



もちろんこの後、  
ちやんと食べるよ。  
たつぷり時間を  
かけて……ね。

……まあ  
そうね

ムラ ムラ、

ムラ、

カシヤ

シク

彼女が小声で呟く。  
じんわりと下着に  
愛液のシミが広がった。  
食べられることを想像し  
興奮したのだろう。

——撮影が進むと  
段々彼女もノリが  
良くなってくる。  
大きな丸いお尻を  
ぷりぷりと振る。

小さな布地の水色の  
下着は、アソコに  
食い込んで肌の  
白さを際立たせる。  
最高の尻だ。

ぷり♡

ぷり♡



おじさん、そんなに撮って  
お金大丈夫？  
でも罰金は絶対に  
まけてあげないん  
だからっ♡

ほらほら、どう？  
シャツターチャンス  
じゃない？  
もっとおまたにパンツ  
食い込ませてあげよっか？  
それとも――

ムラ ムラ

ムラ ムラ

カシヤ

カシヤ



ああ、そろそろ  
パンツの下も  
撮らせてもらおうかな  
おっぱいも見せて

発情した彼女は、  
そんな下劣な要求に、  
にへ、と笑顔で舌を出した。  
ズボンの中のチンコが  
ますます固くなる。

おっぱい

えへ

ムム

ムム

ムム



ドキッ

ドキッ

おまんこっ……!!  
女子高生の生マンコ……!!  
さつき撮れなかった  
マンコを、思う存分  
スマホに収める。

ドキッ

カシヤ

肉厚な小陰唇の  
内側に柔らかそうな  
ひだがあるところまで  
はつきりと見える。

カシヤ

くううっ…  
エロすぎる…!  
濡れて光って…  
くそっ…

むら むら むら むら

へっ

ふっ  
ふっ

暴発しそうで、  
思わずズボンの下の  
ペニスに手が伸びる。  
左手で押さえつけるように  
握るが、かえって  
快感に震えてしまう。

ムラムラ

ムラムラ

おーじさんっ♥  
おちんちんずいぶん  
苦しそうじゃない？

グス、グス

+

涼しい顔で彼女が  
からかってくる。  
くそっ、誰のせいだと  
思っているんだ……！

きゅん、きゅん



舐めてあげよっか？  
おじさんのちんちん  
気持ちよーく  
射精させてあげる♡

は、

は、

ちろちろ

いやらしい笑顔で  
舌でチロチロと  
ペットボトルの  
飲み口を舐め回す。  
あれが、あれが自分の  
ペニスだったなら――

ムラ

ムラ

ムラ

ムラ



そう思うと、もう  
一瞬たりとも  
我慢はできなかつた。  
服を脱ぎ、膝立ちになって  
彼女にペニスを突き出す。

さっさと  
出したいでしょ？  
最初から強めに行くから  
我慢しないでね♡  
おじさんっ♡

ちゅっ♡

はっ

はっ

はっ

ドキ♡

ドキ♡

うぐっ…！  
予告の通り、  
最初から強烈な  
バキュームで  
チンポの先を吸われる。

更に吸い付きながら  
艶めかしく舌が動き、  
一気に精子をペニスから  
抜き取るうとしてくる。

我慢しないでっつてば。  
いっぱい出せば  
いいじゃない♡  
ほら♡♡

そうやって彼女は  
手コキとフェラで  
チンコの根本から  
先端でねぶってくる。  
とても耐えられないっ…!!

はっ♡

はっ♡

んっ♡  
んっ♡  
んっ♡

むわあ…

出しちやえ♡  
出しちやえっ♡  
飲んであげるから♡

っ…あっ！  
あああああっ！！  
精液が出るはしから  
強烈に吸い込まれ、  
射精感が止まらない！

キスッ♡  
キスッ♡

♡ん♡  
♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

あは♥  
濃〜いのが  
いっぱい出たわねっ♥  
溜まっていたの？

猛烈なフェラに  
腰が砕けそうになるが  
なんとか踏みとどまる。  
なんといつても、  
本番はこれからなのだ。

うずうずうず!!!

あは

よしっ!  
それじゃー  
一発ヌキヌキした  
ところであっ♡

ぽろぽろ♡

ん♡

あたしも  
気持ちよくして  
もらおうわよっ♡  
おじさんっ♡



ドキ♡

ドキ♡

ドキ♡

胸をぺろんと  
めくりながら、  
元気に笑顔で  
エロい宣言をする  
女子高生——

はっ♡

はっ♡

ドキ♡

その言葉に、  
さつき射精した  
ばかりのチンポが  
すぐにムクムクと  
大きくなる。

もうこっちは  
じらされすぎて  
我慢の限界  
なんだからっ♡

♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

ア

ムム♡

ぺろん、と  
水色のパンツを  
下まで引き下げると  
股間から糸を引いて  
愛液があふれ出す。

!



階段で撮れなかった  
正面からの  
女子高生エロまんこ  
すかさずスマホを  
取り出し、撮影。

ドキ、ドキ

ドキ

ドキ

メ

メ  
ッ

ドキ

もー、今から  
チンチン入れるのに  
まだ写真撮るのが  
優先なわけ？  
仕方ないわねー…♡

撮りやすいように  
してあげるから  
さっさと撮影  
しちゃいなさいっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

!!?

うお、おおおお！  
すごいっ……！  
じ、自分から  
こんなに広げてっ……



ほらほら、どう？  
入りたいでしょ？  
すっ…ごく  
気持ちいいわよ♡

あほ

女子高生のマンコの  
サーモンピンクの  
肉ひだが、プルプルと  
揺れているっ…!!



撮影音が響くたび、  
彼女のおまんこが  
ピクン、ピクンと  
可愛く反応する。

ドキ、ドキ、

ドキ、

カシャーン  
カシャーン

ふん、ふん、

いくら罰金を  
払ってもいい。  
何枚だって撮って  
残したい。無心に  
シャッターを切る。

カシャーン  
カシャーン

はあ……  
はあ……  
ありがとうございます。  
すごいものが  
撮れたよ……!!

はっ♡

はっ♡

ばちん♡

はっ♡

そう？  
じゃあその凄いことにな  
ってるおちんちん  
そろそろオマンコに  
入れよっか♡  
おじさん♡



彼女がお尻を向ける。  
邪魔なパンツは  
脱ぎ捨てて、  
男のチンポを  
入れてもらうために。

期待と興奮で  
紅潮した笑顔に  
またチンポが  
バキバキに固くなる。

はっ♡

はっ♡

びん、♡

トド!!!



柔らかそうなおまんこも  
きつく閉まったアナルも  
敏感そうなクリトリスも  
全てが丸見えだ

女としての大切な部分を  
全部おじさんに晒して、  
媚びるようにハルヒが  
尻を振る姿がたまらない。

ドキ♡

ドキ♡

ドキ♡

ふり♡

ふり♡



興奮で息が荒くなる。  
つい、乱暴に尻を掴む。  
しまったと思ったが、  
彼女は「あん♥」と  
甘えたような声を出した。

案外、マゾっ気が  
強いのかもしれない——  
小陰唇をぐいと  
引っ張り、思わず  
スマホを取り出す。





もーっ

こら！  
スマホ禁止っ！  
こっちは散々  
待たされたんだから♡

はやくおじさんの  
おちんちん入れて？  
ねっ♡  
もう待ちきれないのよ

///



ドキ♡

ドキ♡

ほ♡

ほ♡

ドキ♡

ムラ

あ、ああすまない  
あまりに綺麗  
だったから  
つい、記録して  
おきたくなってるね。

そんな言葉に、  
照れ笑いをして、  
彼女は上も脱いで  
靴下だけ残して  
全裸になった。

ムラ  
ムラ  
ムラ



いよいよ、待ちに待った  
挿入だ…!  
じらされていたのは  
こっちのチンポだって  
同じだ。

ゴムを付ける気はない。  
お互いの合意のもと、  
生で粘膜と粘膜を  
こすり合わせていく。

ゾクゾク  
ゾクゾク

おん

ゾクゾク

ゾク

ゾク

ゾク

ゾク

ゾク



はいっ…たあ…  
おじさんの  
おちんぽお…

あんっ♡  
やっぱり生好きい…  
おちんちんとおまんこ  
ぬるぬるに溶けて  
一つになったみたいっ♡

あっ♡

おちんぽ



ほん

出し入れするたびに  
マン肉がチンポに  
ぬめりつくっつ…  
最高のマンコだ。

こんな美少女に  
自分のような  
おじさんが生ハメ  
しているなんて  
本当に夢のようだ。



あ、

おほい  
おほい

ぐちゃっ

ほん

ほん

ほん

ほん

ほん

あつ♥あんっ♥  
おじさんっ♥  
ねっ…おしりっ  
お尻叩いてっ♥

あたし、ちよつと  
痛くされるの  
好きっ…かも  
しれなくてっ…  
はあんっ♥



ほん



ほん

ほん

おじさん

いっ

スミ

おじさん

いっ

おじさん

ぐちゃっ

マゾっ気がある  
かもしれないとは  
思ったが—  
こんな直接的に  
言ってくるとは。

丸くて大きなお尻に  
ぴったりと手を添える。  
彼女が羞恥と期待に  
ビクリと震えたのが  
掌の感触で分かった。

ドキ

ドキ

ドキ

ひゅん

うわ

ビクニッ

はあんっ!!

おじさんっ!  
それっ♡  
すごいっ…♡

あ

あ

んっ!

あ





彼女の声が甘く、  
切なくとろけた。  
どうやら、本気で  
感じているらしい。

こうなると  
こちらの方にも  
めらめらとSっ気が  
湧いてくる……!!

じいっいっいっん...

はっ

はっ

はっ

はっ

ガッ

ガッ

はっ

はっ



あまり痛く  
しすぎないように  
気を付けながら、  
お尻をピシヤリと  
いい音で叩く。

どうだっ…!!  
気持ちいいか!?  
とんだマゾ  
女子高生だなっ…

パツパツ

パツパツ

パツパツ

パツパツ

パツパツ

あ

あ

あ

あっ……♡  
あうっ……♡  
気持ちいいっ！  
気持ちいいよおっ♡

マゾで  
ごめんなさいっ♡  
お仕置きで  
感じちゃって  
ごめんなさい♡



ハイパー

もっと下品に  
おねだりしてみる！  
どうだっ…！  
どうして欲しいんだ！

このマンコは  
誰のものだっ…！  
ちやんと言えたら  
ご褒美に  
キツイのやるぞっ！

あ  
あ  
あ

あ

ハイパー

ハイパー

ハイパー



そうやって  
一旦、手を止め、  
彼女の反応を見る。

これから言わされる  
懇願のセリフの  
ひどさに、彼女は  
ゾクゾクと興奮を  
抑えきれないようだ。



お：  
おじさんの…  
もの…ですっ！

あたしの  
おまんこっ！  
おじさん  
専用穴なのっ♡

はっ

はっ

はっ



おっぱいもお尻も  
おまんこも全部っ♡  
おじさんのチンポに  
使ってもらうために  
あるんだからっ！

だからっ♡  
好きなだけ乱暴に  
あたしを使っつ！  
おじさんっ♡



もはや理性の限界だ。  
全力で腰を振り、  
彼女の尻に打ち付ける。  
彼女の嬌声に  
ますます力が入る。

射精感がこみ上げる。  
全身を快感が包んで、  
今にも爆発しそうだ。  
きつとハルヒも  
同じだろう！。

ちんちん  
きたっ

あっ  
キタあ

110  
14

110  
14

ズコ  
ズコ

ズコ  
ズコ





あゝ  
あゝ

あゝ

すき、好き、スキい♡  
痛いすき、気持ち  
いいすきなのお  
おじさんの  
チンポ好き♡

おじさん♡  
おじさん♡  
すきい♡  
すきい♡  
すきい♡  
すきい♡  
すきい♡  
すきい♡  
すきい♡  
すきい♡

ぱん

ぱん

ズツ

ぱん



おん.

おまんこも、お尻も、  
おっぱいも全部っ♡  
あげるっあげるからっ♡  
おじさんの女になるう♡  
なりますからあ♡

あ、だめ、いぐっ♡  
いっちやうっ♡  
パパ活おじさんの  
チンポで孕むっ♡  
あああああっ♡

おん.

おん.

おん.





おっぱい

グッ

んっ



おっ、ああっ♡  
イグっ、いぐっ♡  
いぐうううう♡  
きもち、いいっ♡

いぐいぐっ!  
いってるっ♡  
あ、ああっ♡  
はっあ…あうっ♡

あゝ

あゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

獣のようなイキ声を  
上げるハルヒ。  
全身を駆け巡る快感に  
身体が痺れる。

女子高生のマンコ、  
いや、その奥の子宮に  
ありつたけの子種を  
直接注ぎ込んでいる……！  
幸福感と絶頂感で  
おかしくなりそうだ。

イキッ  
イキッ

イキッ  
イキッ

イキッ  
イキッ

イキッ  
イキッ

んん  
んん

アッ  
アッ  
アッ  
アッ

気持ちいい  
気持ちいい  
気持ちいい

ああ、あつ……♡  
はあつ……あ♡  
お、じさんのつ……  
中につ……  
出てるっ……♡

あ、あ……♡  
膣出しっ……されて  
に、妊娠っ、  
しちやう♡  
えへ、へへ……♡

あつあつ……

あつあつ……



チンポを引き抜くと  
とんでもない量の  
ザーメンが、どつと  
あふれ出てきた。

だが、あれだけ  
出したというのに  
まだチンポは  
反り返ったまま  
萎える気配もない。

どろっ

あっ

ゾク

ゾク

どろっ



本能で分かっているのだ。  
こんな極上の若いメスと  
セックスし、孕ませる  
チャンスなど二度と  
ないということが。

ハルヒはあふれ出た  
精液と、まだ固い  
ペニスを交互に見比べ  
チンポに媚びたような  
照れ笑いを浮かべた。

七五三






は...

は...

おじさん...♡  
もう一回—  
エッチしよ?

ううん  
おじさんの精子  
出なくなるまで  
何回でも...しよ♡  
ねっ♡





この後、  
何度も何度も――  
精液の一滴も  
出なくなるまで  
セックスした。

夢のような時間は  
あっという間に  
終わってしまった。  
だが、その帰り道――



っじゃーん！  
おじさんお疲れ様っ  
顔入れて写真撮って  
いーわよっ♡

行きと同じ駅の階段で、  
スカートをたくし上げる  
彼女——そこには  
マジックで文字が  
書かれていた。

それ待ち受けにでもして  
お仕事頑張りなさいっ！  
また声かけてくれたら  
パパ活してあげるから♡

カニヤ

おじさん専用  
♡おまんこ♡

おじさん専用  
♡おまんこ♡

どうやら、夢の時間は  
まだ続くようだ…。  
スマホを取り出し、  
彼女の満面の笑みを  
写真に収めた。

# 涼宮さんとの いっしょ



終

彼女を最初に見た時  
怒っているのだと  
思った。

口元はキツく結ばれ  
眉は吊り上がって、  
黒曜石のような瞳が  
地面をじっと睨んでいた。

涼宮ハルヒの  
2



この子が相手……？  
こんな可愛い子が？  
そこのアイドルより  
ずっと美人だぞ

いやでも、  
待ち合わせ場所は  
ここだし……  
伝えてきた服装にも  
合っている。

ドクン……

ドクン……

「JK制服の大学生」  
と書いてあったけど——  
まさか、本当にJK……？

……あんたが  
待ち合わせ相手？

じろ、と一瞥する少女。  
自分は黙って頷く。  
内心、冷汗が出てきた。

ドツク……

こんな子と、  
これからパパ活で  
セックスできるのか……？  
こんなに若くて  
美しい子と、自分が――

ドツク……



……ああ。  
一応、証拠を見せるね。  
やり取りの画面を――

別に、いい  
見ず知らずで  
あたしに声かけて  
来るおじさんなんか  
いないでしょ。

……そうは  
思わないけど。  
その、君は特別  
綺麗だから……

フッ

む、と  
彼女の口が  
への字になる。

む  
...

あ、そう。  
……まあいいわ。  
行きましょ。

機嫌を損ねたようだ。  
うかつだった。  
彼女の容姿なら、  
「綺麗」なんて人生で  
聞き飽きている言葉  
なのだろう……。

だが、綺麗としか  
言いようがないのも  
確かだった。

その……  
食事とかは？  
どこか行きたい  
ところとか——

おなかが  
すいてないから  
いららない。

別にいいでしょ？  
おじさんだって  
別にご飯食べに来た  
わけじゃないし。

あ、  
ああ——

見透かされている。  
実際、彼女との  
セックスへの期待で  
頭の中は一杯だった。

ドクン……

ドクン……

ドクン……

道中、会話なく  
ラブホテルに入る。  
彼女が緊張しているのが  
はつきりと伝わってくる。


こわばった表情。  
吊り上がった眉。  
固く結ばれた口元。  
それでも、彼女を  
美しいと思ってしまう。

ドゥッカン...

ドゥッカン...

あまりこういうことに  
慣れていないんだろうか？  
まあ、それは自分も  
同じなのだが——

ドゥッカン...



エレベーターが降りてくるのを待つ。彼女は壁際で座り込んでいる。低く構えて警戒する猫のような姿勢だ。

あまりにも短いスカートから、白いふとももがむっちりと見える。

チエツクのスカートと白のルーズソックスに挟まれた太もものエロさは凶悪だ。

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

だ…大丈夫？  
体調悪いんじゃない？  
それとも、  
緊張してる？

……ん  
そうね。  
緊張してるわ。

でも……大丈夫。  
何をしに来たのか  
分かってるから。

!!  
フゥ…

フゥ…

3、  
—、  
…

フゥ…

これでしょ？

ドキ

ドキ

ドキ  
ドキ

ドキ

……っ！

ドキ  
ドキ

ドキ  
ドキ

彼女は立ち上がると、  
かすかに震える指で  
ぴらりとスカート  
を  
摘まみ上げた。

ドクン...

ドクン...

ドクン...

すげえ……  
JK美少女の  
生パンツ……!!

じゅん

ドクン...

あんな細い紐パンで  
布も小さくて——  
し、しかも股が  
濡れてないか……？

あそこに  
もうすぐ——  
俺のチンポを  
入れるんだ……!!

ドクン...





もういい？  
エレベーター  
来たわよ

あ、ああ  
乗ろう

再びスカートの下に  
下着が隠れる。  
しかし目に焼き付いた  
映像は簡単には  
消えそうもない……。

いっ  
……

あの小さなパンツ……。  
あの下に彼女の  
おまんこが濡れている。

なんとかして  
スマホに撮影  
させてもらえない  
だろうか……？

追加でお金を  
払えば——  
いや、それとも……

あれこれと  
妄想で頭がいつぱいに  
なっていたが、  
「ついたわよ」という  
彼女の一言に  
現実の引き戻される。

ドゥックン……

ドゥックン……

ドゥックン……

ラブホテルとしては  
豪華なところを  
とったのだが、  
彼女にはあまり  
興味がないようだった。

部屋を軽く一瞥すると、  
荷物を投げるように  
椅子に置く。  
じろりと  
こちらを向いた。

シャワー、  
あたしは別に入ら  
なくていいけど。  
おじさんは  
入りたい？

あ、いや……  
俺も別にいいかな。  
家で浴びてきたから。

ドゥッ

ドゥッ

ドゥッ

どきどき

ドクン...

ふうっ……

どさり、と  
身体を投げ出すように  
彼女がベッドに  
横たわった。

スカートが  
ずり上がり  
むっちりとした  
太ももが  
あらわになる。

ドクン...

ドクン...

ドクン...

むっちり  
むっちり

エロすぎる……  
興奮で股間が  
ガチガチに勃起  
してしまう。

ここから先、私は  
よくわかんないから  
おじさんの好きに  
していいわよ

トクン...

す、好きに  
していい——!?

おしゃべり...

トクン...

トクン...

.....  
っ!!



ドゥックン

ま、まずはスカートと  
めくりあげて  
パンツの撮影を——

いやいや……  
先にあの太ももを  
撫でてみたいぞ

ドゥックン

大きな胸に  
顔をうずめて  
JKの乳首を  
しゃぶりたい……!

ドゥックン

ドゥックン

こんな、こんな  
美少女に、  
なんでもしていい！  
そんなことって……

……確かに  
彼女は  
そうだった。  
だけど——

ドゥックン



……やめようか

えっ!?

彼女がキョトンと  
した顔になった。

いいやしりたいのは  
やまやまだけど——  
君が望んでるように  
見えないし……

ここまででもう  
十分ドキドキ  
させてもらったし

お金はちゃんと  
払うから——

嫌なら、本当に  
しなくていいんだ。  
こういうことは。

あつ……でも  
パンツだけ  
撮影させて  
くれたら嬉しい……





……あは！

ねえ、おじさん。  
紳士的になろうと  
するの——  
それ遅すぎない？

うっ……！！  
いやでも、本心なんだ。  
嫌がることをしたい  
わけじゃないんだ。

若い子と、  
その……  
エッチは  
したいんだけど。

お金払って  
こんなことして  
いる時点で、  
信用されない  
だろうが……

ううん、  
信用する。

ムクッ

よっ……と。  
はあーあ。

あたしが会った  
一人目の  
パパ活おじさんは  
ひどかったのよ！

会うなり、いきなり  
乱暴に胸を触ろうと  
してきたんで、  
カバンでぶったたいて  
逃げちゃった。

ゆさっ

彼女は起き上がると  
急に饒舌に喋り出した。  
緊張がほぐれた  
のだろうか？

おじさんはそいつに  
比べたら百万倍、  
紳士的ね！  
自信もっていいわよ

はーあ。  
良かった、二連続で  
変な人じゃなくて。  
緊張してたのよ  
これでも……。



トクン...

.....

彼女はまた  
黙ってしまった。  
大丈夫？と  
声をかける。

トクン...

.....  
いいわよ

その、あたしも  
興味があるから  
誘ったわけで.....  
写真だけ、なんて  
言わないわよ  
今更——

えっ？

トクン...

いっとくけど、  
恥ずかしくもない  
訳じゃないからね！

さつきから心臓が  
バクバクいって  
破裂しそうよ……！！

そう言いながらも、  
彼女はスカート  
をずりあげ下着を  
あらわにする。

白い太ももの  
間の小さな布に  
チンコが反応する……

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

もっとな……よく  
パンツを見せて欲しい。  
その、アソコの  
ところも……

ん……  
ほら、これで  
いい？

寝ころんだまま、彼女は  
足を持ち上げる。  
小さな布の下で、ふつくらと  
恥丘が盛り上がっている。

触っても  
いいかな？

彼女がコクンと頷いたので、  
手を伸ばし、そつと撫でる。  
ぶるり、と少女は身を  
震わせた。

ドゥ……♡

ドゥ……♡

ドゥ……♡

ドゥ……♡

すごく濡れてるね：  
アソコが反応して  
ぬるぬるになってる

んっ……♡  
そうね……  
興奮、してる

自分で触ることも  
あるけれど——  
こんなに濡れたのは  
はじめて、かも……

しゅわっ、しゅわっ

足を払ってもらおう。  
布の下のふつくらとした  
おまんこは、興奮で  
ぬるぬるになっている。

彼女の息も荒くなり  
発情が伝わってくる。  
今、この少女は  
セックスの準備を  
しているのだ……

股間がはちきれそうだ。  
そつと、パンツの布を  
ずらしていく。  
少女の抵抗はない――。



ドキ♡

ぷるぷるのアソコが  
あらわになる。  
綺麗なピンク色が  
健康的で、ヒダが  
柔らかそうだ。  
思わず息をのむ。

ドキ♡

ドキ♡

……  
舐めても  
いい？

ご、ごめん。  
あ、あんまり  
綺麗だったから……

それはダメ！  
もう、ばか！

綺麗だからって  
なんでも口に  
入れないの！  
もう……



ドキ♡

……せめて、  
先にキスでしょ

……!

ドキ♡

ドキ♡

いいの?と聞くのも  
野暮だろう。

彼女は少し  
期待したような顔で  
唇を尖らせている。

こんなJKと  
キスできる  
なんて……



ちゅっ……  
ちゅ……

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

少女のぎこちない  
キスを受け止める。

柔らかく吸い付く  
ようなしっとりとした唇……

ちゅっ

キスしながら、ずっしりと  
セーターに重みを加える  
胸の先端をそつとなぞる。

んっ……  
♡

んっ

んっ…  
はあ…♡

は…♡

ね…  
この後…  
するんでしょ？

その…  
後ろからでも  
いい？

は…♡

♡♡♡

前からだと…  
ちよつと  
恥ずかしいっ…  
からっ…♡

ん…♡

♡♡♡

♡♡♡





四つん這いになる  
美少女……  
セーターをたくし上げ  
大きな胸があらわになる。  
緊張して震える彼女の  
身体にゆっくりと触れる。  
心臓の鼓動が伝わるようだ……

はやる気持ちを抑えて  
ペニスを取り出す。

彼女の呼吸が  
速くなるのが  
わかった。

ホロ

ゆっくりと  
差し入れる。



ぬるつくアソコに  
ペニスが入っていく。  
すごい締めまりだ。

ひよつとして  
初めてなの  
だろうか……？  
いや、まさか……

んっ……♡

びくっ♡

びくっ♡

あんっ♡

少しずつ、すこしずつ  
慎重に動かす。  
ゆっくりとした  
ピストン運動……

乱暴に腰を  
振りたくなる  
衝動を抑える。

ズッ……

へんなっ……  
感じ……  
男の人のが……  
あたしの身体の中に  
入ってる……♡

ズッ……

ズッ……







あとで聞いたところによ  
ると、この時彼女は  
本当に処女だったらしい。

こんなJKの初めてが  
自分だったことに  
興奮して身震いする。

彼女の身体の  
感度はよく――

最後は小さな体が  
跳ねるようにイッた。



荒い息をつきながら  
ベッドに横たわる  
彼女——  
アソコからは、  
さつき出した精液が  
流れ出している。

は……♡

は……♡

……撮っても  
いいかな？

そう尋ねると、  
彼女はコクンと頷いた。  
スマホを持つ手が  
興奮で震える……。

じゅ……♡



上気した彼女の  
笑顔に、また  
ムクムクとチンポが  
勃起してしまおう。

男の人って  
しかたないのね

クス

クスクスと笑って、  
彼女がいたずら  
っぽく続ける。

写真、  
勝手に撮ったら  
一枚につき  
百円だからね。

カシヤ

カシヤ

ムクムク

ドキ

ドキ

ドキ♡

罰金？

そう、罰金  
だから。

喜んで  
払うよ。

ばかね、  
喜んでたら  
罰にならない  
じゃない。

ドキ♡

ドキ♡

ドキ♡

クンクン



そんな彼女の写真を  
何枚でも撮り続けた。

彼女との、  
初めてのセックス。  
初めてのパパ活——



そんな彼女が  
今となっては……

あ、あのさ  
写真いい  
かな……？

ん？写真？  
ほい、罰金ね。

かほ♡

100-

そう言って、こちらも  
見ずに足を開く彼女。  
あの頃の趣ある  
やりとりはどこへ  
行ったやら……

いつの話を  
してんのよ

最初はもっと  
恥じらいがあった  
というか……

やれやれ  
やれやれ  
やれやれ  
……

はあー？  
恥じらい？あのねえ  
そんなに恥じらいが  
あったらパパ活  
しないでしょ。

そういう子は  
おじさんとエッチ  
してくれないわよ？

何回もエッチ  
してるのにいつまでも  
恥じらってたら  
それは演技よ、演技。

そ、そう  
かな……

フニ  
フニ

Fo…



はっ

く

ドキ

ドキ

おっ

うっ……  
恥じらいのない  
大股開きが  
エロすぎる……

あたしはそーいう  
演技の恥じらいより、  
こういう風になりたいことは  
したいって誘うのが好き。

JKのおまんこを  
一生懸命撮影してる  
おじさんは  
どうなのかしら？

ぐら

ぐら

ぐら  
ぐら

おっ





ほらほら♡  
さっきからあたし  
待ってるんだけど？

ほら

く

ぐいと腰を持ち上げ  
足をぱっくりと  
開いて誘ってくる。



ゴクリ……と  
生唾を飲み込む。  
ぷりっとしたひだが  
綺麗なピンク色だ。

女子高生の  
おまんこ……  
柔らかくて弾力があり  
とろとろに濡れている。



優しくふちをなぞる。  
指の動きに呼応して  
ピクッピクッと  
肉が震える。

.....  
♡  
じらすじやない

あとで、この内側を  
たっぷりとチンポで  
なぞってやる.....  
そう決意する。

く  
く  
り  
り♡

ドキ♡

ドキ♡

ドキ♡

あんっ♡

舌を入れると  
気持ちよさそうな  
声が出る。

甘い響きが耳から入り  
首を通って背筋に抜ける。  
ゾクゾクする……。

703

入れたい？

こちらの様子を  
察して彼女から  
声をかけてくる。

頷くと、ニヤツと  
笑顔になり、  
アソコをくっつきぱりと  
開いた。

気持ち  
よくなつて  
いいわよ。

ドゥ♡♡♡♡

ドゥ♡♡♡♡

ドゥ♡♡♡♡

お♡♡♡♡

く♡♡♡♡

ニ  
ツ

深呼吸をして、  
チンポをあそこに  
あてがう。

(舌、出して……)

囁くように、彼女が  
甘く耳打ちする。

ぐつと体重をかけると  
ぬめる肉の中を  
ペニスが入っていく。

言われるままに  
舌を出すと  
吸い付くように  
舌を絡めてきた。



チンポが膣の中で  
吸い上げられるのと  
シンクロするように  
ベロチューで舌を  
なぶられる。

じっくりと舐め回すように  
舌を絡めてみせることも  
あれば、チュツ、チュツと  
音を立ててついでにんだりも  
してくる。

彼女のキスも  
ずいぶんと  
上達した。



じんわりと腰が  
重くなっていく。  
水が溜まり、やがて  
溢れるように……  
射精の時間が近づく。

なんとか射精を耐え  
コントロールしよう  
とするのだが、  
彼女のくねる腰が  
それを許さない。

んっ

あっ

んっ

ズッ

ズッ

ズッ





出るっ  
.....!!

我慢することも  
できず、盛大に  
ぶちまけた。

一瞬遅れて、  
彼女も絶頂する。

どろ……と  
精液にまみれた  
チンポを引き抜く。

ん……。  
こっち  
持ってきて

彼女に言われるまま  
彼女の口元に  
チンポを近づける。

ど  
ろ  
ろ



はっ

はっ

お掃除  
してあげる……  
んっ……♡

んっ  
んっ

どろろ……♡

チンポの段差に  
ついた精液を  
丹念に舌で舐めとる。



こんな美少女に  
おそうじフェラされる  
だなんて……  
まずまず興奮  
してしまふ……。

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

じゃあ、お礼に  
こっちも綺麗に  
するね……

彼女のアソコから  
垂れてきた精液を  
指で掬い取り、  
膣の内側に塗りこむ。

やん♥  
もー……  
そんなにあたしを  
孕ませたいの？

ぬり♡

まだ  
できるでしょ？

もちろんだ。今日は  
金玉がカラッポに  
なるまでHする  
覚悟はできている。

彼女はニヤリと  
笑うと、むっくり  
起き上がって尻を  
突き出してきた。



はんっ

バックからのセックス。最初にパパ活した日とは違って、遠慮なしに腰をぶつける。

彼女のアソコはすっかりこなれて、チンポに気持ちよく吸い付いてくる。

あんっ♡

はんっ

それでも、女子高生のオマンコの締めりはずっと変わらず最高だ。

衝動に任せて乱暴に腰を打ち付けると、彼女が甘えた声で応える。

はんっ

はんっ

あっ♡  
あんっ♡

嬌声をあげる  
彼女をさらに  
何度でも突く。

JKを孕ませたい  
という欲望が、  
焦燥感のように  
自分を掻き立てる。

んっ♡  
つぎっ……  
あたしが上ね♡



彼女が上になって  
勢いよく腰を  
上下させる。

ほらっ♡  
ほらっ♡  
……♡

どうっ……？  
おじさんっ……♡  
いいでしょうっ？

女子高生の  
おまんこで  
イツちやえっ♡





わかるん  
だからっ……  
おじさんっ♡

おじさんが  
あたしのこと  
すごくエッチな  
目で見てて——

ムラムラ  
あたしのこと  
孕ませようと  
してるのっ……

あたしの子宮を  
おじさんの精子で  
いっぱいにして

あたしのこと  
妊娠させたい  
んでしょ♡

はっ♡

はっ♡

ムラムラ

ムラムラ



動きが激しさを増し  
彼女の喘ぎ声も  
段々大きくなる。

あんっ……  
あっ……

あ

ん

はん

はん

おじさんっ……  
いきそう  
なんでしょ？  
あたしもっ……

ねえ、一緒に  
いこっ♡あん♡  
あっ……いく♡  
イツ……

ん



彼女の  
膣の奥深くに  
ありつたけの精子を  
吐き出す。

全身を  
信じられないほどの  
快感が包み  
広がって、  
溶けていく――。

彼女も蕩けた顔で  
アソコをほぐし、  
どろりと精液を垂らす。

はあ……  
はあ……  
はあ……  
きもち、  
よかった……

は

とろ

は

は

は

は



エベレーターホール。  
あれから二人で  
めいっばいセックスした。

文字通り、  
精液の一滴も  
出なくなるまで  
絞り取られた。

性も根も尽き果てたとは  
まさにこのことだが、  
こんな美少女とHできる  
幸福感で満たされている。



最初に来た時も  
ここでエレベーター  
待ったわね。

懐かしい？

んー、別に。  
あたし、過去は  
どうでもいいって  
主義だから。

あの時、君はスカートを  
めくってパンツを  
見せてきて……  
めちやくちや  
興奮したよ……

そう？  
良かった。

ズッ  
〇〇〇

ニヤニヤと  
彼女が言う。  
ちよつと期待の  
まなざしを  
向けてしまう。

また見たい？  
でも、今は無理ね。

え、無理？  
なんで――

だって、今は  
はいてないもの。  
パンツ。

んな  
—  
!?

ぴらっ

短いスカートの下は  
本当にノーパンだった。  
思わず、呼吸が  
荒くなってしまう。

階段とかで  
見えちゃったり  
しないん  
だろうか……？



ふふふ、さあ、  
どうかしら？  
駅とか気を  
つけなきゃね。

あ。あたしのアソコ  
見たことあるの  
おじさんだから。  
安心してね。

パサッ

とんだ悪女だ。  
そして、そんな彼女の  
術中にすっかり  
はまってしまっている。

もう頭の中は、  
彼女のスカート  
下のことだけに  
なってしまった……。

……こういうの、  
男の人は  
独占欲でムラムラ  
するんでしょ？

あ、そうそう  
次のパパ活は  
危険日にピルなしで  
するから。

ちゃんといつもみたくに  
三日間はオナ禁して  
精液溜めといてね♡

き、危険日？

ん。  
したいんでしょ？  
種付けセックス。  
じゃーね。  
また連絡するわ。

彼女はそう言うと、  
屈託のない笑顔で  
帰っていった。

だが、こっちはチンポが  
バキバキに勃起したまま  
取り残されてしまう。  
危険日に  
種付けセックス……？

ドクン……

ドクン……

ドクン……

ドクン……

また次、彼女と会うまで  
悶々とする日々が  
続きそうだ……。

涼宮ハルヒの  
完結





何もしないのか、  
って？  
そりゃもちろん、  
Hするわよ。

ね……今日は  
どのコスでエッチする？  
制定するわ。今日は一日、  
『コスエッチの日』だから！

ニヤハハ♡

ドキ  
ドキ♡

ドキ  
ドキ♡

キラ♡



はあ!?  
またバニーガール?  
はー、あんた  
バニー好きねえ…

はー

コスエッチの時、最初は  
必ずバニーって言うわよね。  
露出少なめなのに、  
そんなにいいわけ?



いい？ちゃんとした  
バニーコスって  
すっごく固いのよ。

ドキッ

ドキッ

コルセットみたいなのもんで  
ぜんっぜんエッチ向き  
じゃないのよ。  
どうせ脱がさなきや  
なんないし……。

ドキッ

ドキッ



……まあ、そんなに見たいって言うならいいけどね。うん。

あたしも嫌いじゃないし。バニーコスチューム……。んじゃ、着替えてくるわね。

ドキッ

ドキッ

オロオロ

ドキッ





じゃじゃんっ！  
どお？どお？  
思えばこれが初めての  
コスだったわね。

ドキドキする？  
初めて部屋で見た時も  
ドキドキしてた？



「正直引いてた」あく？  
はあく？  
普通、ドキドキする  
ところでしょう!?

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

胸とかポロリしそうで  
興奮しなかったわけ？  
ほら、こんな風に……♡



よしよし、おちんちんは  
正直みたいね！  
ふふ、じゃあ良い子に  
ご褒美あげないと♡

いつもより、  
すっ……ごく丹念に  
フェラしてあげる。  
感謝しなさいよね！

ドキ

ドキ

わい  
わい

わい

わい

ドキ

んっ……♡  
ふふ、ピクってしてる。  
んっ♡ どうぞ？

先っぽ、ちろちろと  
舐められるの好きでしょ？  
一番敏感なところだものね。  
ん……もう少し突き出して。

ピクッ♡

ピクッ♡

はっ♡

ちろちろ♡

はっ♡

ピクッ♡



んっ……♡  
んっ……♡  
んっ……♡  
ふはっ……♡

こういう風に、真空にして、  
ぎゅーっと吸い付けられるの  
好きなんですしょ？  
情けない顔になってるわよ♡



出そう？  
だーめ、ガマン。  
耐えれば耐えるほど  
気持ちいいんだから。

ビクビクしてるわね♡  
まだ、まだだからね？  
ほら、先っぽにキスして  
あげるからっ♡ んっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡



んあ……。  
すっ……。ごく濃いのが  
出たわねー！  
気持ち良かったの？

さてと……。  
一発抜いて気持ちよくなった  
ことだし、じゃあ、そろそろ  
セックスしよっか♡

は

は

どろろ

どろろ

どろろ



はーっ……  
で、ここからエッチ  
するには、結局脱ぐしか  
ないわけよ……

「うさ耳と蝶ネクタイが  
あれば大体バニーコス？  
バニーガール好きの人に  
怒られるわよ、それ……





はあっ……♡  
んっ……♡  
入っ……たあ♡

あー、寝バックすきい……♡  
体重がかかって、圧迫  
される感じがして……♡  
背中側、カリでひっかかれる♡



っ……♡  
もう、こんな時に  
急に愛の言葉とか  
言わないの！

んもー……♡  
アンタって、そういう所  
あるわよね……  
はいはい、私も愛してるわよ。



クスクス♡  
クスクス♡

ニクニク

ポッポッポッ



あつ……♡  
あつ……はあ……♡  
あへ……♡

いっぱい……出たわね。  
気持ち、良かった？  
うん……♡

ドクン♡

ドクン♡

ドクン♡

ドクン♡

ドクン♡



じゃじゃーん！  
逆バニーコス、  
買ったわよ！

これで着たままエッチ  
できるわね！  
今日も一日、コスプレエッチ  
しましょ！

ハルヒの力のせいで、  
「コスプレエッチの日」が  
国民の休日として  
制定されていることを  
この時の俺はまだ  
知らなかったのだった。

完。





































































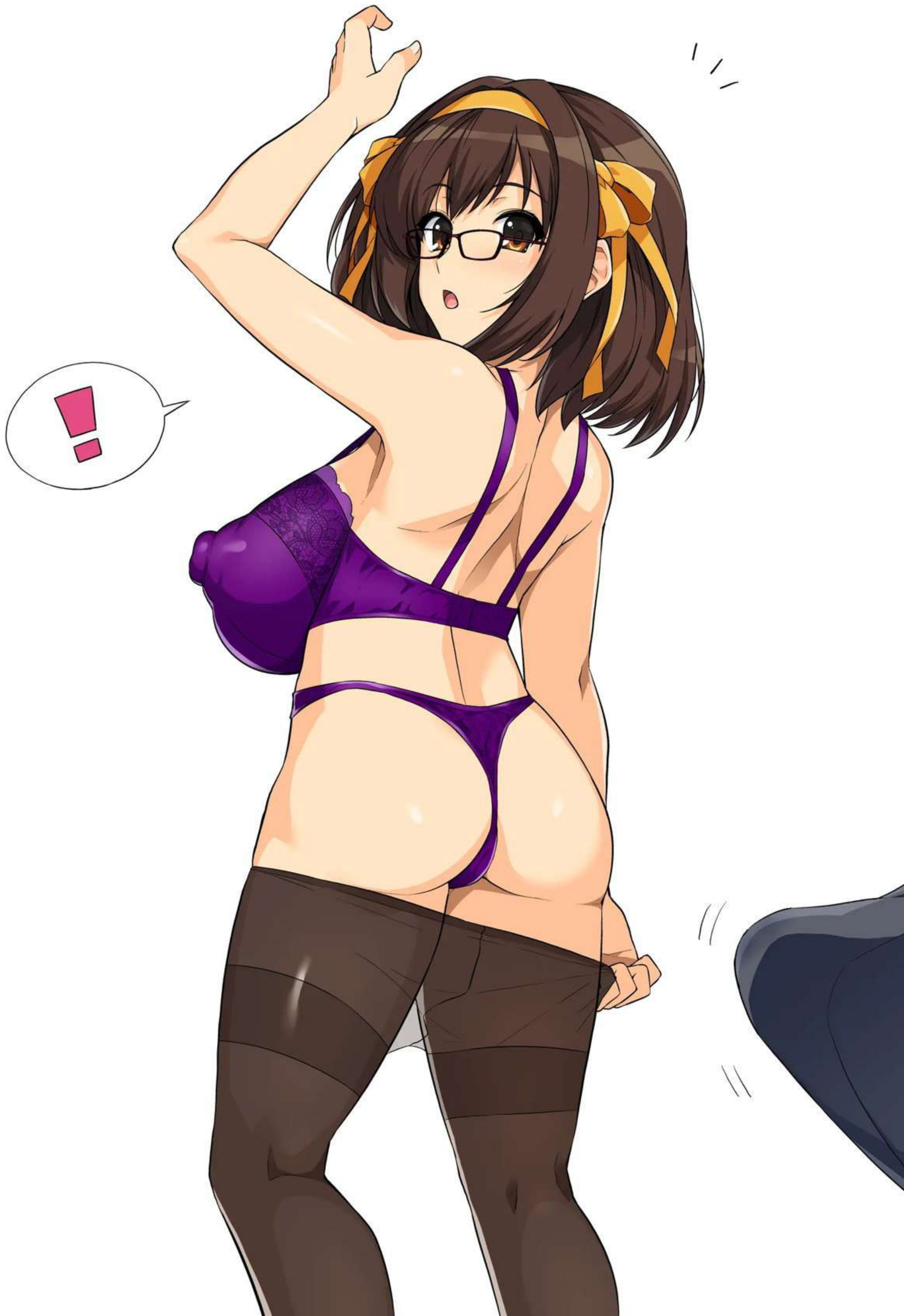












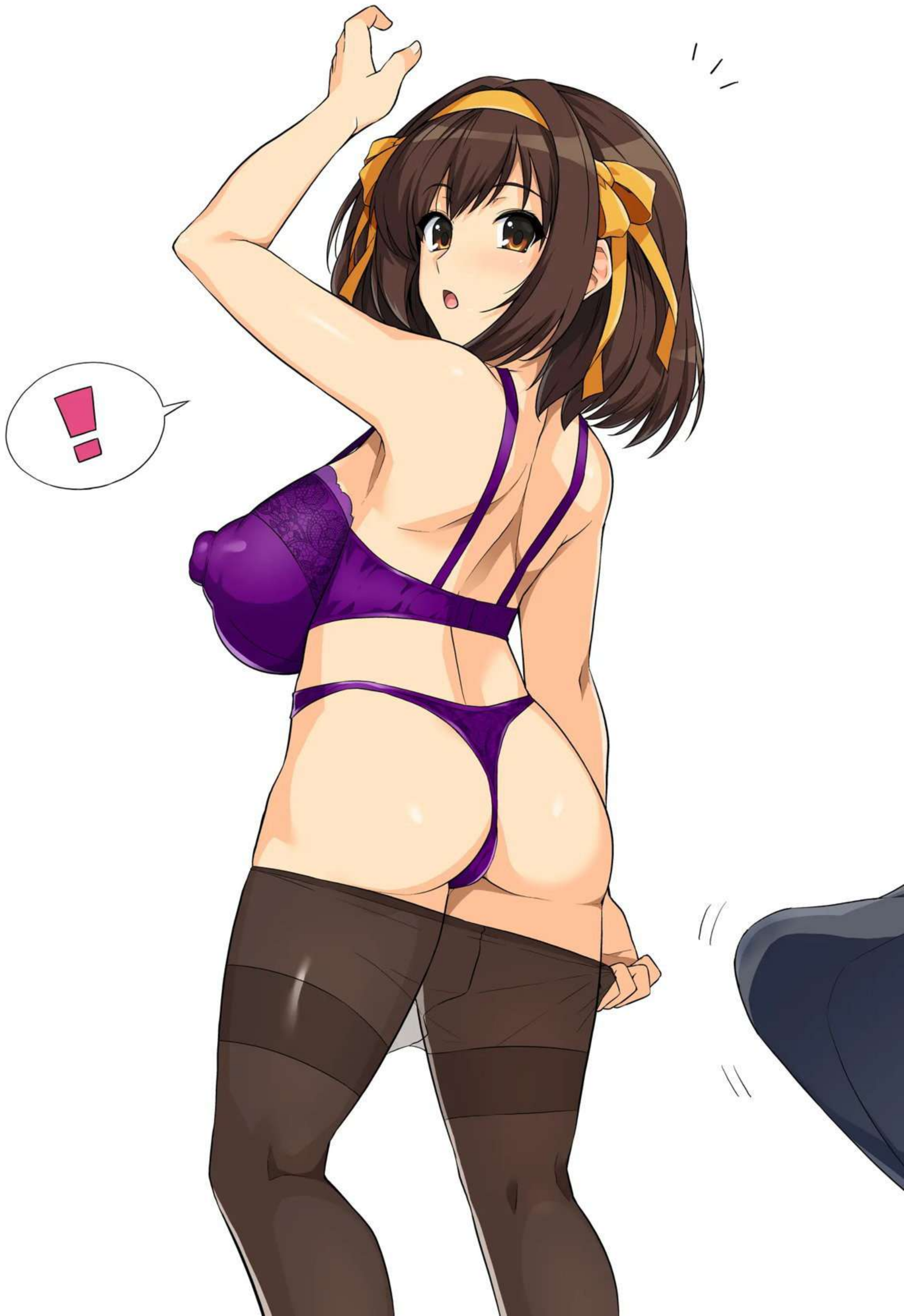












































北高に入学して、  
俺は、はじめて  
あの涼宮ハルヒと  
同じクラスになった

中学では、三年間  
ずっと違うクラスで  
一度も、話をしたこと  
すらなかった

三年間片想いした  
女の子と、はじめて  
同じクラスになって、  
俺は有頂天になった

B 僕の方が先に  
S 涼宮ハルヒを  
S 好きだったから

涼宮ハルヒは  
中学で沢山の男と  
付き合っていた。  
軒並みすぐフラれて  
いたが――

お試しでも付き合えるなら  
自分にもチャンスは  
あるかもしれない……  
内心そう思いながら、俺は  
涼宮ハルヒに告白した

「あんたに  
興味ないから」

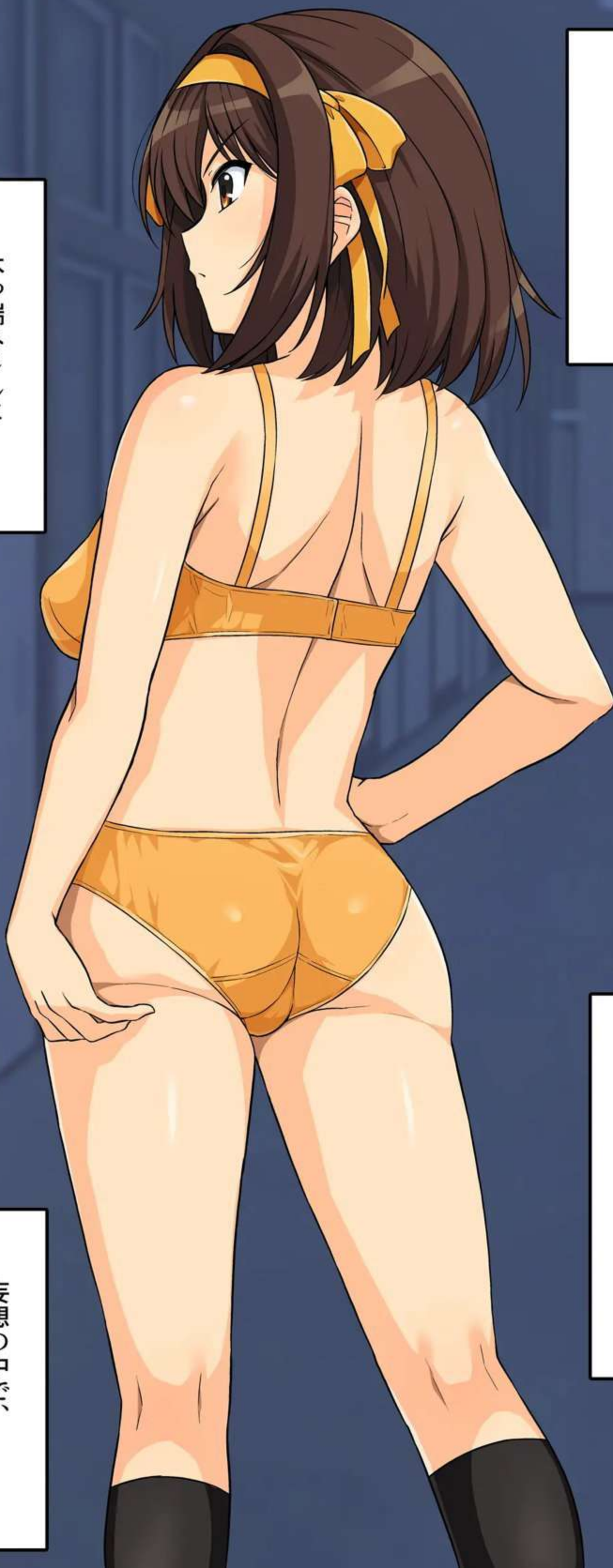
涼宮ハルヒから  
返ってきたのは、  
バツサリとした  
一言と、冷たい視線  
だけだった……

くそっ……!!  
す、涼宮のやつ……  
なんなんだよ、  
「興味ない」って……!!

木っ端みじんに  
玉砕した後も、  
涼宮ハルヒのことが  
頭から離れることは  
なかった……

教室で無造作に  
着替えだした涼宮の  
オレンジ色の下着姿——  
それが目に焼き付いたまま

妄想の中で、  
涼宮のことを  
考えてはオナニーを  
してしまう情けない  
日々を送っていた。



『何？あなた  
あたしでオナニー  
してるわけ？  
あんなにハッキリ  
フツたのに？』

ドクン...

妄想の中で裸に  
なった涼宮が、  
冷たい視線で睨む。  
だが、オナニーの手が  
止められない……


『あきれた……  
頭の中ならあたしを  
自由に裸にできるって  
わけ？ 気持ち悪い——』

涼宮の冷たい視線と  
辛辣な言葉……  
悲しいが、妄想の中  
ですら、それが一番  
リアリティがあった

ドクン...

ドクン...





だから——  
その後の涼宮ハルヒの  
変化は、衝撃的だった

よくわからない部活を  
作って、団員集めを  
するためにバニー姿で  
勧誘する涼宮ハルヒ——

何よりも、笑っていたのだ。  
あの、涼宮ハルヒが——  
いつも不機嫌そうで、  
世界全部をつまらないと  
思っているような彼女が。

涼宮の新しい一面は  
俺の心をわしづかみに  
してしまった……  
今度は、涼宮の笑顔が  
頭から離れなくなった



『あら、あんたも  
SOS団に  
入りたいの？  
もちろん、大歓迎よ！』

ドクン...

『じゃあ、新団員の  
あんたには、私が  
特別な歓迎会を  
してあげる……♡  
もちろん、二人きりで♡』

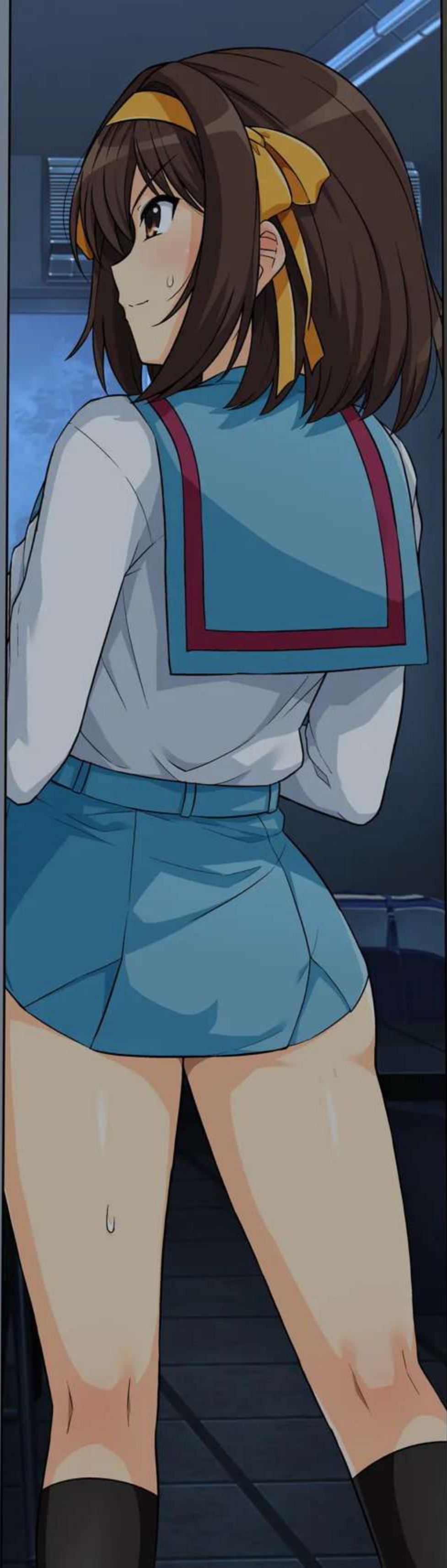
涼宮の部活に入って、  
恋人同士になる妄想で  
オナニーしまくった。  
涼宮の恰好はあの  
バニーガールで……

だが、本当に  
入部を申し出る  
勇気はなかった……  
フラれた傷は簡単には  
治っていないからだ

ドクン...

ドクン...





だから、あの部室の前を  
通りかかったのも、  
それを見たのも——  
本当に偶然だった

わずかな隙間から  
涼宮の姿が見えて、  
俺は何の気なくそれを  
覗いてしまった……

決して、覗き目的だった  
わけではなく——  
目の前の光景を  
理解するのに、  
時間がかかったただけだ

部室には、涼宮と  
もう一人——  
クラスの男がいた  
団員のあの男だ……

ド  
クン……

二人が、どうやら  
親密な関係なのは  
間違いないようだった。  
あいつの前で、顔を  
上気させた涼宮が——

涼宮にいつも引っぱり  
回されて、不機嫌そうな  
顔で溜息をつく、  
涼宮の前の席のあいつ——

ド  
クン……

スカートをたくし上げて  
自分の下着を見せていた。  
それだけじゃない、  
さらに、服を脱ぎ——



そして、裸になり、  
あいつと抱き合い——  
これからここで何が  
起きるのか、明白だった

ド  
クン...

クラスでの不機嫌な顔とも  
最近の楽しそうな笑顔とも  
違った、涼宮ハルヒの  
のぼせたような表情——

その表情に、  
自分の片思いが  
完全に終わったことを  
はっきりと思い知らされる

それでも、覗き見るのを  
やめることは、俺には  
できなかった……  
ズボンの下で、股間が  
痛いくらい勃起していた

ド  
クン...

続  
て





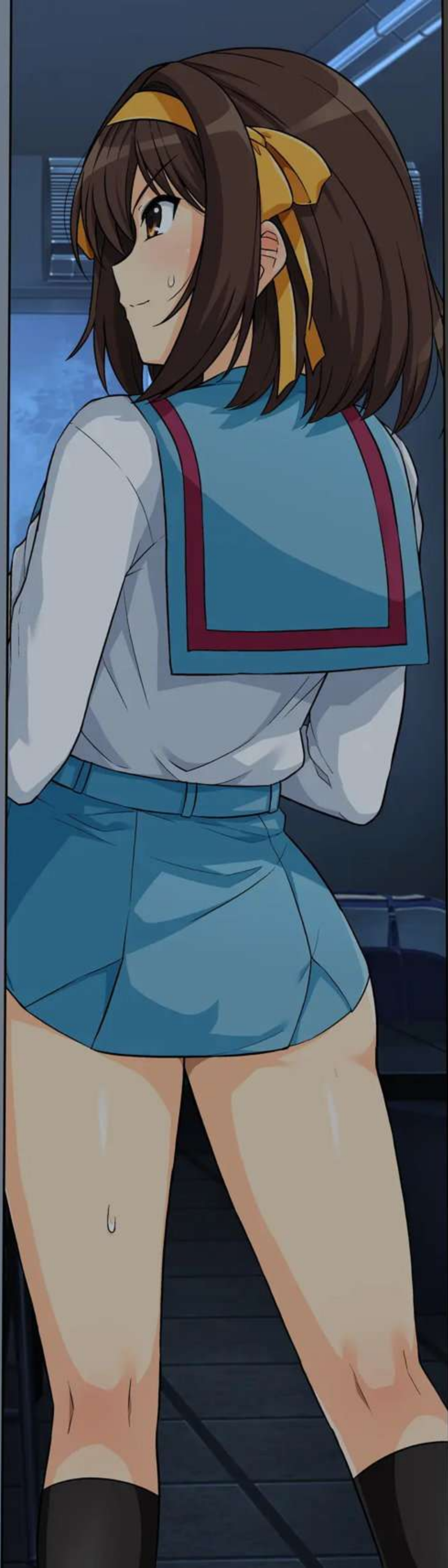

























「ねえ！  
あんたどうして  
屋上にいるわけ!?  
鍵はどうやって  
開けたの!?!」

B 僕の方が先に  
S 涼宮ハルヒを  
S 好きだったのよ  
2


ある日の放課後――  
部活をサボって屋上で  
ゴロゴロしていたら、  
興奮気味に涼宮が  
話しかけてきた



告白して見事に  
フラれて以降、初めて  
涼宮から話しかけられ、  
一気にドキドキする

内心ドキドキしながら、  
しどろもどろに、  
屋上の鍵は壊れていること、  
部活をサボっていたこと  
などを説明したのだが――


説明が進むごとに  
彼女の表情がどんどん  
冷めていくのが  
はっきりわかった……



「……単に鍵が  
壊れていたただけ、か。  
あーあ……」

正直に言って、  
何がそんなに涼宮を  
がっかりさせたのかも  
よくわからなかった。

面白いことが始まり  
そうだったのに——。  
そう言って、すっかり  
興味を失くした涼宮は、  
ふいっと去っていった。



それ以降は、特に  
会話らしい会話をした  
こともなかったが、  
常に俺は涼宮を目で  
追ってしまっていた。

たとえば——  
あるとき、体育の授業で、  
水飲み場の横に座って  
駄弁っていると、  
涼宮が水を飲みに来た。


ブルマの涼宮が  
かがんで水を飲む姿——  
それだけで、その日は  
ずっとドキドキしていた。



『ふーん、ブルマ姿の  
あたしを見て、  
興奮したんだ？』

当然、その日のオナニーの  
オカズは、ブルマ姿の  
涼宮が、誘惑してくる  
という妄想だった。


体操着をたくし上げ、  
大きな胸をさらし、  
誘惑してくる涼宮—。  
ペロリと舌を出す。



俺の妄想の中の涼宮は  
いつも明るく、エロく  
積極的に誘惑してくる。

『ほら、裸になって  
あげたわよ♥  
今日はどんな風に  
エッチする?』

『パイズリする?  
それとも、フェラが  
いいかしら?  
なんでもいいわよ♥』



だが、童貞の悲しさか、  
妄想はそこから先には  
進まなかった。  
涼宮とのセックスが  
上手く想像できなかった。

『ふーん、そうなの？  
じゃあいいわ、シコシコ  
オチンポこすってる  
ところ、見ててあげる♥』

自信満々で、挑発的——  
そんな涼宮にニヤニヤと  
眺められながらオナニー  
する妄想が、俺のオカズの  
定番だった……

だから——  
覗き見ている先にいる  
本物の涼宮の姿は、  
妄想の中とは全然違った。

緊張にガチガチに震え、  
下着を下ろそうとして、  
手が震えるのか、  
固まってしまっている。

頭を殴られたような  
衝撃がずっと続いている。  
好きな男の前の涼宮が  
あんな風だったなんて——



おそらくは初めての  
エッチなのだろう……  
涼宮は不安そうで、  
臆病そうで——  
一生懸命だった。

相手の男も——  
やはり緊張している  
ようだった。  
何度も失敗しながら  
コンドームをつける。

これから、涼宮が  
セックスする——  
頭に血が上って熱くなる。  
股間はガチガチで、  
ズボンに当たって痛い。

優しく、だが、確実に  
男のペニスが、涼宮の  
アソコに押し当てられ、  
入っていった――

涼宮は最初声を  
抑えていたが、  
少しずつ、甘い吐息の  
混じった声を漏らした。


片想いの相手がセックス  
している姿――。  
股間がずっとぞわぞわした  
感覚に包まれていて、  
俺は自分が射精して  
いることに気づいた。

どれぐらい挿入が  
続いていただろう—  
短かったようにも、  
永遠だったようにも  
思えた

は—♡  
○○○○

やがて、涼宮と男が  
一緒にぶるつと震え、  
二人が絶頂したことが  
俺にもわかった。


満足げに微笑む、涼宮の  
温かい表情—。  
抱き合ってキスする  
二人を見て、俺は  
そつとその場を離れた。



それから、毎日毎日、  
その涼宮の姿で  
オナニーをした。  
一日何回も射精した。

その夜の涼宮の姿を  
思い返すことは  
本当にキツかったが、  
それでもオナニー  
せずにはいられなかった。


夏休みも毎日シコった。  
こうして、俺の  
片想いは終わった——  
いや、フラれた時点で  
終わっていたのだが。



「——あなた、  
文化祭までサボって  
屋上にいるわけ？」

文化祭の日——。  
屋上でサボっていると、  
バニーガール姿の  
涼宮が不思議そうに  
覗き込んで来た。

あらゆるやる気を  
失った俺は、  
クラスの出し物にも  
積極的に参加できず、  
居心地が悪かった。



「ま、人それぞれ、  
別にいいわよね」

咎めだてるつもりは  
ないらしい——  
涼宮は、入学当初とは  
かなり変わったように  
見えた。

「あんた、ヒマなら  
視聴覚室に来なさい！  
あたしたちSOS団の  
超すごい映画を  
上映してるから」

涼宮、SOS団って  
——楽しいか？

「もっちろん！  
最ツ高に楽しいわよ！  
あんたも楽しいこと、  
もっと探しなさい！」

そう言ってニツと笑った  
涼宮は、これまでで  
一番魅力的で——  
俺は、やっと立ち上がり、  
視聴覚室に向かった  
のだった。

ニツ♡



































ただいまー  
はー……疲れた  
今日はしつこい  
お客さんがいて  
困っちゃった……

お夕飯の準備の前に  
お風呂入らせてね

ゆさ……

ムキムキ♡  
ムキムキ♡

そうそう、  
部長さんが旅行に  
行ってたらしくて  
お土産にお菓子を  
貰っちゃった

美味しそうだったから  
あとで食べましょー  
って、どうしたの？  
顔、赤いわよ？

ア  
ッ  
ッ  
ッ



ちよ、ちよっ……  
ちよっと！  
な、何やってるの!?

『我慢できない』って——  
こ、こらー！  
やめなさいっ!!

あ、あっ……！  
だ、ダメよっ……  
こんなっ……！

びいっ



(お尻の穴に  
入れるなんて……  
こんなのっ……  
おかしいっ……)

(へ、変な感じ——  
ムズムズするっ……  
そ、それに、ぞわって……)

ムズムズ

ズッ

(や、やだっ……  
アソコまで濡れて  
きちやってるっ……  
もうっ……)

ズッ

ズッ





















欲望の地下都市  
ヨミハラへの  
侵入……

過去何人もの  
対魔忍が失敗している  
重要任務——  
娼婦に化けて潜入……か  
任務とはいえ、ヨミハラの  
下衆どもに抱かれるのは  
うんざりするわね

まったく……  
ロクでもない所だわ  
さっさと任務を  
済ませましょう

対魔忍  
娼婦に堕した。(30)

くっしょん

奴隷商人ゾクト。  
こいつが仲介役？  
嫌な男……

ねぶるようにこちらの  
身体をいやらしく  
吟味する視線が不快だわ。  
任務でなければ、  
絶対に関わりたくない  
種類の男ね……

明日から、私は  
娼館に潜入する……  
覚悟を決めなきや  
これは任務だもの



キラッ♡

一体なんなのよ  
もう……!!

対魔忍の上層部に  
裏切者がいて、任務の  
内容は全て筒抜け—  
連れていかれたのは  
娼館じゃなくて改造  
施設だったなんて!

奴隷娼婦—  
奴らに決して逆らう  
ことのできない身体に  
改造されちゃった  
じゃないの……!!

キラッ♡

キラッ♡

キラッ♡

キラッ♡



チャンス  
を  
待  
つ  
し  
か  
な  
い  
!

表向きは従順な  
奴隷娼婦のフリをして  
客どものおちんぽに  
ご奉仕しつっ——  
洗脳拘束を解いて  
任務を果たすのよ……

っ……  
あんたが今日の客？  
奴隷娼婦、ハルヒよ  
さっさとおちんぽ  
出しなさいっ！



ハルヒ (23)

数ヶ月後……

対魔忍はとうに堕ちていた  
彼女はもはや任務を  
忘れ、客との快樂に耽る  
本物の奴隷娼婦になった  
改造により増幅された  
性交の快樂には  
逆らいようもない——

彼女は自分の置かれた  
状況を存分に楽しみ、  
自分の天職だとすら  
考えているのだった

当店人気  
No.1!

☆元対魔忍のナマイキ奴隷娼婦  
NGなし、中出し可。H大好き。  
本指名ランキング1位、リピート1位。

・店長イキオミ!



はっ

っ

はっ

は

元対魔忍——  
涼宮ハルヒよ！

へえ、あんたが今日のお客？  
「生意気娼婦を躡てやる」って  
随分意気込んでるじゃない  
ふふん、いいわ！  
好きなだけやってみなさいよ  
その代わり、こっちも全力で  
ご奉仕しちゃうんだから♡

あたしのとろとろの  
奴隷娼婦おまんこ、  
あんたのおちんぽで  
屈服させなさい♡  
できるものなら、ね

フワフワ♡

彼女の挑発的な  
セリフは客の男たちの  
征服欲に火をつける——  
ハルヒの甘い声を響かせ  
今日もヨミハラの夜は  
ふけていくのだった













いつも使っている  
路線で、北高の生徒が  
痴○の被害にあった  
らしい——

学校からもそれとなく  
注意喚起があり、  
その路線を使う北高の  
女子はほとんど  
いなくなった

バス通学に切り替える  
こともできるが、  
定期券もまだ残っている。  
それに——少しだけ  
興味もあった。

涼宮ハルヒの  
最終痴○の  
電車



混雑する通勤電車  
特に、階段の近くの  
三両目が混み合う。  
わざとそこに乗った。

バカそうな男子たちが  
「三両目は痴漢専用車両」  
などと話していたのを  
思い出したからだ。

サラリーマンらしき  
男たちで混み合う車内。  
たしかに、身体が当たるが  
痴○と騒ぐほどのもの  
じゃない……。  
こんなものか……。

「っ…!!」  
ぞわりとする感触。  
電車が揺れて手が  
当たったとか、そんな  
ことじゃない。

ドキッ

意図的に、太ももを  
撫でている、男の手—  
(っ……ち、痴○……!)  
本当に来た。  
しかも、乗ってすぐに……。

とはいえ—  
ここまででは想定した通り。  
自分の想像を超える  
すごい体験がしたくて  
この車両に乗ったのだ。

「こんなもんなわけ？」  
小声で、強気な台詞を  
吐いたつもりだが――  
声が上がっていたのが  
自分でもわかった。

その言葉が聞こえたの  
だろう――。  
痴○の男は、ゆっくりと  
手を太ももから離し、  
胸を揉みしだきにかかる。

ドクン……

ドクン……

ドクン……

(こいつ、手慣れたる。  
胸をはい回る指は、  
下着ごしでも、的確に  
気持ちの良い部分を  
愛撫してきた。)

しばらくそうして、男に身体をまさぐられる時間が続いた。心臓がドクドクと激しく音を立てる。

ドクン...

電車が駅に着くと、「続きはまた今度」と囁いて、男は降りて行った。ふん、と鼻を鳴らしてスカートをぎゅつと握る。

ドクン...

ドクン...

なにがまた今度、よ。大したことなかった。痴○なんて言っても、ただ服の上から触るだけじゃない。

あの日から一週間――。  
あの三両目には一切  
近づかなかった。  
下らない。あんなの、  
大したことじゃない……。

そう思いながらも、  
男の指で体をまさぐられる  
あの感触は記憶から  
なかなか消えなかった。  
むしろ、思い出すごとに  
快感が増していく。

ドクン……

ドクン……

ドクン……

あの日その後、すぐに  
ネット通販で買った、  
馬鹿みたいのエロい  
下着が届いた……。  
どうしよう……。



結局、その下着をつけて  
あの三両目に乗った。  
同じドア、同じ立ち位置。  
一週間前と、全く同じ  
時間に乗る込む。

スカートは思い切り短く  
まくり上げてある。  
ほとんどパンツが  
見えてしまうぐらいに。  
さあ、これでどう？

ドクン……

ドクン……

ドクン……

唇をぎゅつと噛み、  
誰かが触れてくるのを  
待つ……。  
さあ、どうなの？  
早く来なさいよ——！

「欲しがりだな」  
いきなり、胸を揉まれる。  
心の準備ができて  
いなくて、びくん、と  
身体が跳ねてしまった。

「はあ？なんのこと？」  
強がり返すが、興奮で  
顔がこわばってしまう。  
男はニヤリと笑う。  
「階段から見てたんだよ」

「その短すぎるスカートの  
下のどエロい下着、  
皆に丸見えだったぞ」  
からかう男の言葉に、  
ゾクゾクと震えが  
全身を駆け巡る――。



「……確かめてみる？」  
挑発的する言葉を吐く。  
男は黙ったまま、  
ゆっくりと手を下に  
ずらしていく。

「あ……♥」  
男の手がスカートの下に  
滑り込み、パンツの紐を  
指でなぞる。  
じゅん、とアソコが、次に  
来る何かへの期待に濡れる。

ドクン……

ドクン……

ドクン……

男の指が下着の紐に  
かかり、持ち上げる。  
脱がされちゃう。  
最初は指かしら？  
それとも——



「……ここまでだ」  
男はそこで手を止めた。  
「……ちよつと、なんで  
ここまでやっておいて  
ビビったってわけ？」

ず……

ドキ

ドキ  
ドキ

「朝の電車じゃこれ以上は  
やらないルールだ」  
痴〇たちにもルールが  
あるのだろうか。  
こんな生殺しで——  
不満げな顔で男をにらむ。

ドクン……

ドクン……

ドクン……

「今日の最終電車、  
同じこの三両目に来い。  
最後までしてやる」  
男はそう言って電車を  
降りて行った。

夜――  
適当なネカフェで時間を潰したあとに、着替えて駅に向かった。  
最終電車、三両目――。

思いつきり露出度の高い服を選んだ。ブラはしていない。馬鹿みたいな恰好だと思う。でも、これから馬鹿みたいなことをしに行くのだ。

ドクン……

ドクン……

ドクン……

痴○に言われるままに、身体を触られにいく。ううん、それだけで終わるわけがない。その先のことも――

『最終痴○電車、まもなく到着いたします……』  
駅のアナウンスも変だ。  
ホームには、大勢の男……  
まばらに、女もいた。

「来たな」  
列に並んでいると、後ろから、  
むんずと胸をつかまれた。  
薄い布をめくられ、乳首が  
あらわになる。  
乳首は固くなっていた。

んんん  
んんん  
んんん

(い、いきなりこんな  
感じなんだ——！)  
男に胸を揉まれながら、  
やってきた最終電車に  
乗り込む……。

「ビビってるのか？」  
「ハア？そんなわけ  
ないじゃない。  
楽しみに来たのよ！」  
声が震える……。

挑発的な言葉にも男は  
取り合わず、ホットパンツと  
小さな黒い紐パンを  
脱がしにかかると  
濡れたアソコが空気に触れ、  
ひんやりとする。

「さあ、どうして欲しい？」  
そう、自分の口から  
言わせたい、ってわけね。  
まあいいわ、言っ  
てやるうじゃない……。

ズル……



「今日一日、ずっと  
あそこが濡れっぱなし  
だったわ……  
朝、あんな風に  
寸止めされて……」

「何度も何度も想像したわ。  
あの先、下着を脱がされ、  
裸にされて、アソコに  
入れられて——犯される。  
今、これから、そうなる」

「アンタも、あたしを  
めちやくちや犯したい  
から来たんでしょ？  
……ヤツて。いますぐ」

ドクドク  
ドクドク

ドク  
ドク  
ドク

ズッ

「生意気な雌ガキが」  
男はニヤリと笑うと、  
ぬるりとペニスを  
膣に滑り込ませた。  
電気のように快感が走る。

あッ

ズッ

激しいピストン運動に  
意識が飛びそうになりながら  
必死で、揺れる最終電車の  
吊革を握りしめる。  
既に、乱交が始まっていた。


ズッ

あッ

ズッ

何度も絶頂し、何度も  
別の男に入れ替わり、  
無限に犯されながら、  
最終電車はどこまでも  
走っていった。





「ふーん、オジさん、  
この最終電車に乗るの、  
初めてなんだ……♡」  
あれから一ヶ月——  
私は「常連」になっていた。

「常連」は、新しい乗客を  
連れてくるのが役割だ。  
朝、満員電車で、おどおどと  
私の身体を触ってきた、この  
中年男性のように。

「ほ、本当にいいのかい？  
ここなら、何をしても」  
「もちろん♡」  
快楽の電車の虜になる。  
今夜も、楽しみだ……。





































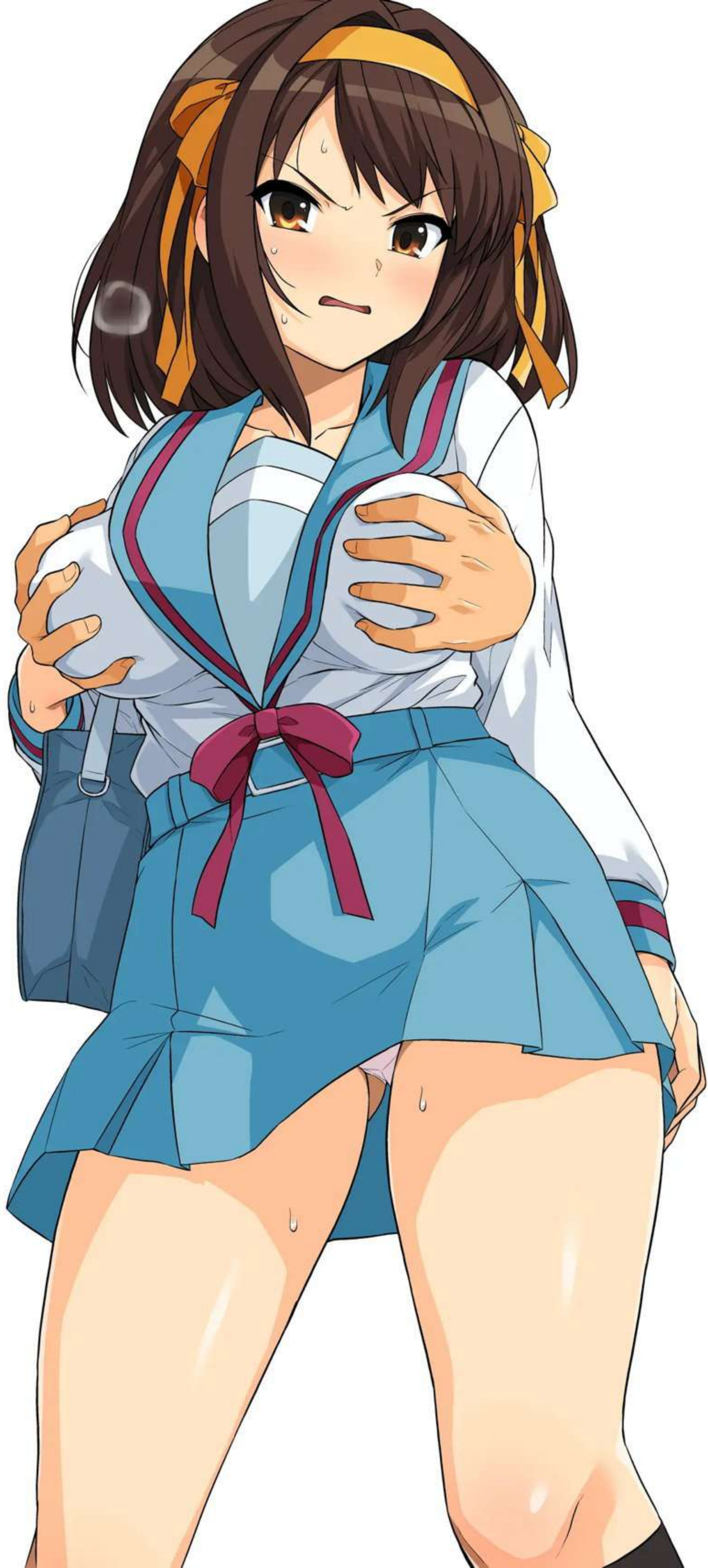






























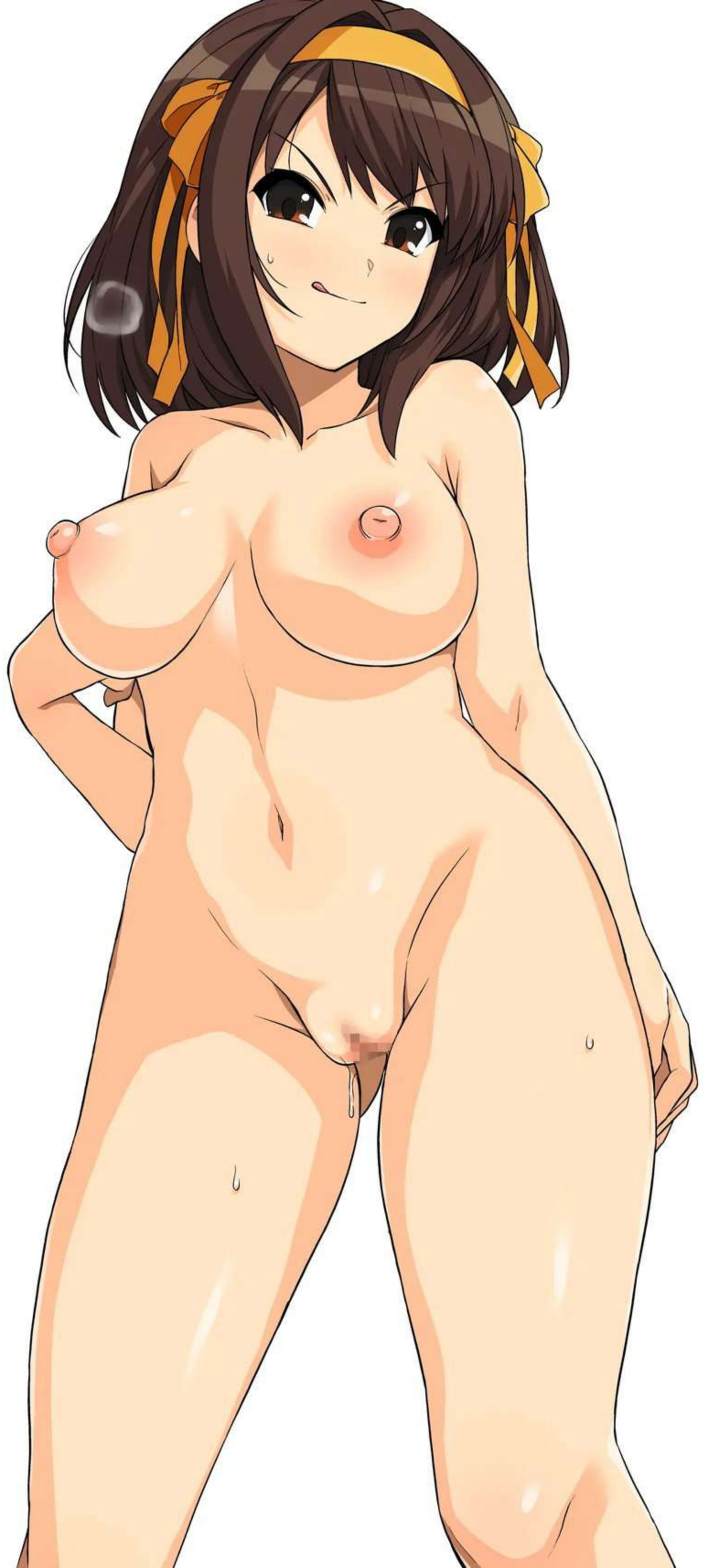












正直言って——  
これまでも電車で  
視線を感じることは  
何度もあった

自分が目を引く  
容姿なのは  
わかっていたし


制服を着た若い  
女の子に、男たちが  
欲望を持つことは  
知っていた……

涼宮ハルヒの  
目取終痴の  
電車2

がアッ...

がアッ...

がアッ...



でもそのことに  
興奮していたかと  
いうと……全然

そういうことに  
興味もなかったし  
……まあ、  
ゼロではないけど

体育の授業前に  
教室で無造作に  
着替えたことすら  
あった……

だから——  
あの日……  
自分から際どい  
下着をつけて……

わざとパンツの  
見えるような  
短いスカートで  
電車に乗った時は  
本当にドキドキした

男の人の視線を  
感じるたびに  
全身が粟立つような  
ゾクゾクする感じ

ドクンッ

ドクンッ

ドクンッ

ドックンッ

(っ……  
きたあ……♡)  
痴漢はすぐに  
釣れた

胸を揉まれながら  
震える手で  
短すぎるスカートを  
たくし上げる……

ドックンッ

ドックンッ

(どお?  
すごいでしょ?  
この先、もっとすごい  
ことだって……!)

ソッソッ

「朝はここまでだ」  
そう言って、痴漢は  
手を止めてしまった

(んなっ……  
こ、これからののに)  
私の不満げな表情に  
男は気付いて笑う

「今夜、最終電車—  
この同じ車両に  
乗ってこい……  
最終痴漢電車に」

ドクン

ドクン

ドクン



電車を降りて  
すぐトイレに  
駆け込んだら  
動悸が激しい

は...

胸と太ももを  
触られただけで、  
もうアソコは  
ぐちゃぐちゃに  
濡れていた...

は...

は...

今夜だ。今夜、もっと  
すごいことができる。  
今夜、最終痴漢電車に  
乗れば

は...

ド  
ク  
ン  
ド  
ク  
ン

ド  
ク  
ン

ド  
ク  
ン

そして今——  
痴漢の男に言われた  
ままに、最終電車で  
乗り込んでいます

ドキ

バカみたいに激しい  
露出の服  
ノーブラで乳首が  
ピンピンに立って  
いるのもバレバレ

ドキ

ドキ

いっそ……  
こっちから声を  
かけてやろうかしら？  
周囲を見渡すと——

ドキ





「……そこのおじさん  
よく朝見かける人ね」  
目についた中年の  
サラリーマン風の男に  
声をかけてみる

ドキ♡

「あたしと楽しいこと  
しない？ここでは  
アリなんですよ……  
そういうの♡」

ゾクゾク♡

ドキ♡

ばるん♡

ゾクゾク♡

ばるん、と  
胸をはだけて見せる。  
男たちがゴクリと  
生唾を飲み込む——

ドキ♡

周囲では既に、  
男たちに身体を  
触られる女の子の  
甘いあえぎ声が  
響き始めていた

「あたしのこころ、  
空いてるけど？」  
そう言いながら  
アソコを晒して  
見せる――

中年サラリーマンの  
股間がはちきれん  
ばかりに勃起し、  
私は座席に誘われた

ドキッ

ドキッ

ドキッ

ドキッ

んっ

んっ

身体が震える  
心臓の鼓動が  
高まる……

足をぱっくりと  
開くと、  
男たちの視線が  
アソコに集まる

今からここに  
入れるんだ……  
しちゃうんだ  
セックス……♥

ドクンッ

ドクンッ

トロ……



「いいのかい？  
入れちゃって」

「ここまできて  
ガマンするなんて  
無理でしょ？」

アソコを指で  
拡げて見せる。  
チンポがアソコに  
あてがわれた。

ドクンッ

は

ドクンッ

は

は



入ってくるっ  
入ってくるっ  
おちんちんっ♡♡

女の子の大切な  
場所に、中年男性の  
黒ずんだペニス  
差し込まれていく

身体の中を  
擦られる感触に  
ぞわぞわと快感が  
走る――



「あっ♡  
あんっ♡  
やあっ♡」

頭の中で火花が  
弾けるような感覚。  
セックスって  
すごいっ……♡

「次は俺だっ……」  
既に後ろには  
ゴムをつけた男の  
列ができていた。



「あっ、こら！  
生はダメよ！  
ゴムなしお断り！」

ト  
フ  
ッ

No!

「……持っていないの？  
でもどうしても  
やりたい？  
……はあ  
しよーがないか」



避妊具なしの  
ペニスと膣に  
突っ込まれる

(なにこれっ……  
ゴムありよりも  
気持ちいい……)

チンポの段差が  
直に刺激して  
くるっ……♥  
ヤバいっ……♥





「あー……  
気持ちいい……  
膣で出しても  
いいかな？」

「ハア!?  
ダメに決まってる  
でしょっ……!!」

めいめい

突然の言葉に  
お腹がきゅんっと  
反応してしまう



「いいじゃん  
おじさんの子  
産んでよっ  
ハルヒちゃん」

すくすくっ♡

「バカじゃないの  
そんなことっ……  
孕むっ……  
なんてっ……♡」

すくすくっ♡

絶対ダメなのに  
その可能性に  
ゾクゾクと興奮  
してしまっ……

ぞくぞく♡

ぞく♡

ぞく♡

「あーもうっ!  
わかったから  
好きなだけ  
出しなさいよっ」

男たちはうおお、と  
声を上げて、  
競って膣内射精を  
はじめた

ぐんぐんぐんぐん

ぐんぐんぐんぐん

もーっ♡

もう、これじゃ  
孕んでも誰の  
子供か、分から  
ないじゃないっ♡



それから——もう  
何発出されたのか  
わからなくなって……

へトへトの  
ドロドロになって  
ようやく——  
宴は終わった

多分……  
ううん、間違いなく  
人生で一番幸せな  
一夜だった——



数ヶ月後――

「ハルヒちゃん  
お腹大きく  
なってきたねえ」

「でしょ？  
今日も楽しませて  
もらうからね  
パパたち♥」

ほーん



誰に孕まされたか  
わからないお腹を撫で、  
涼宮ハルヒは今日も  
快楽にふけるのだった

終。























団長



団長



団長





団長













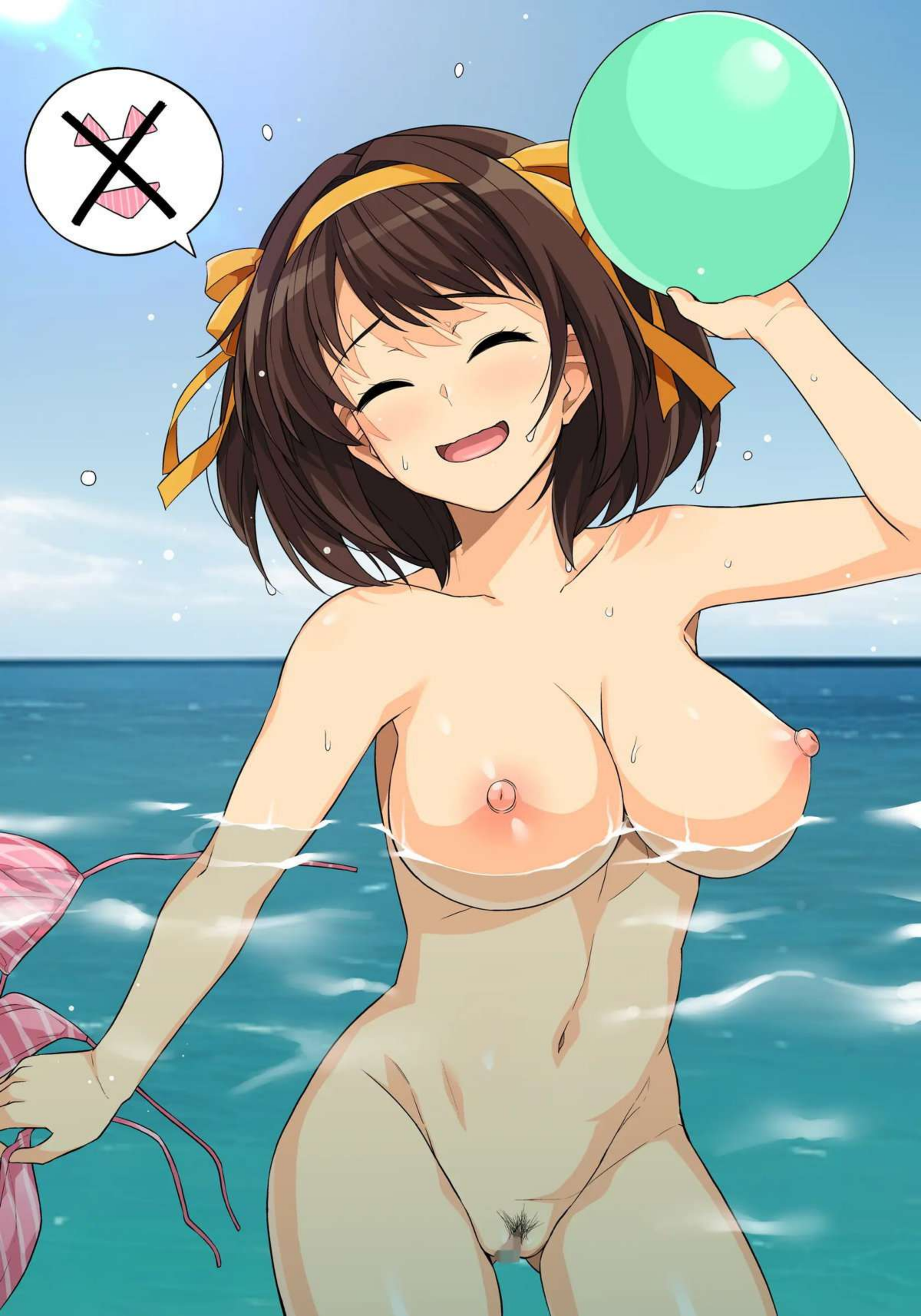






















ふ...  
たった...?

ムネ

ムネ

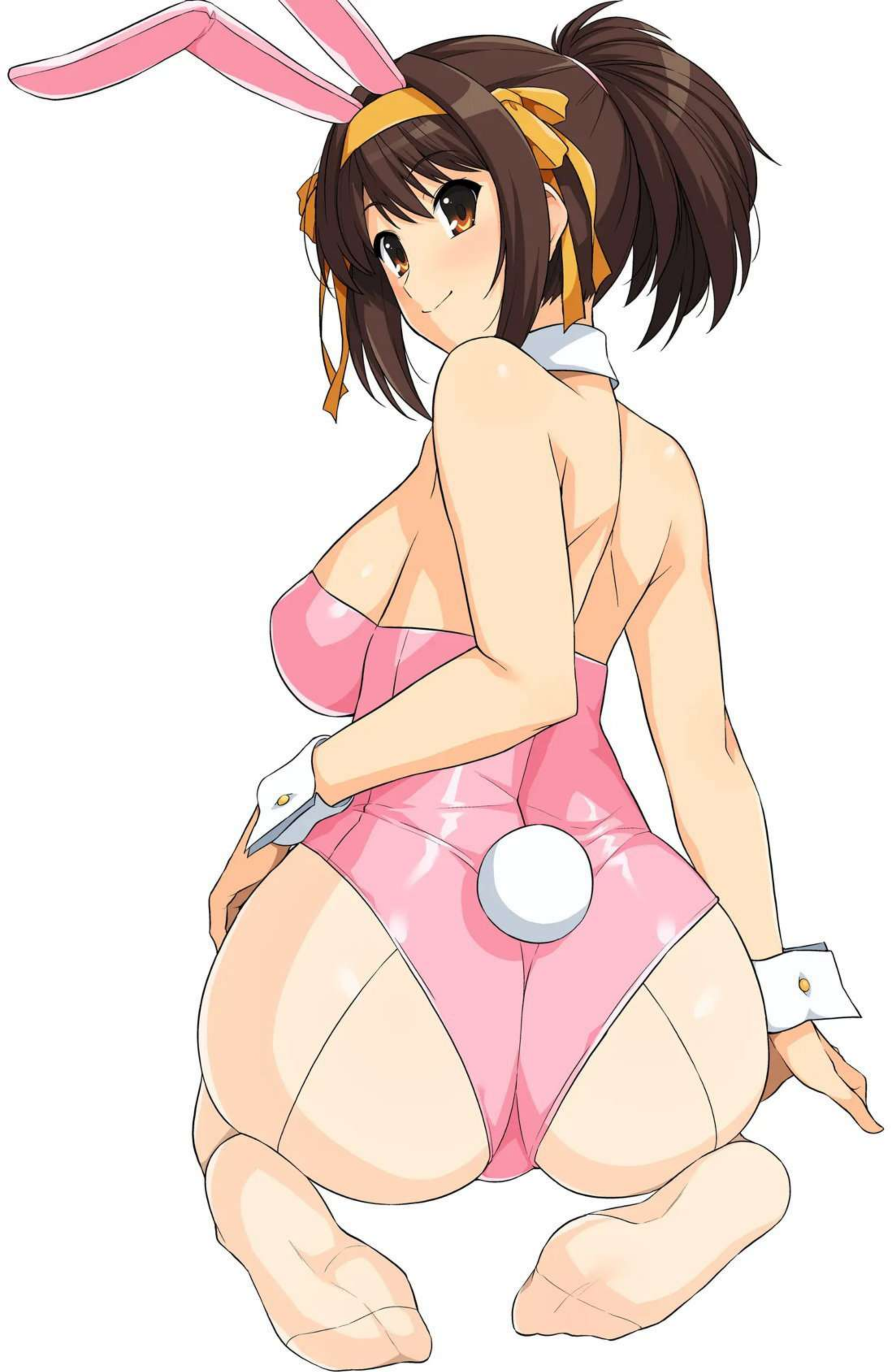






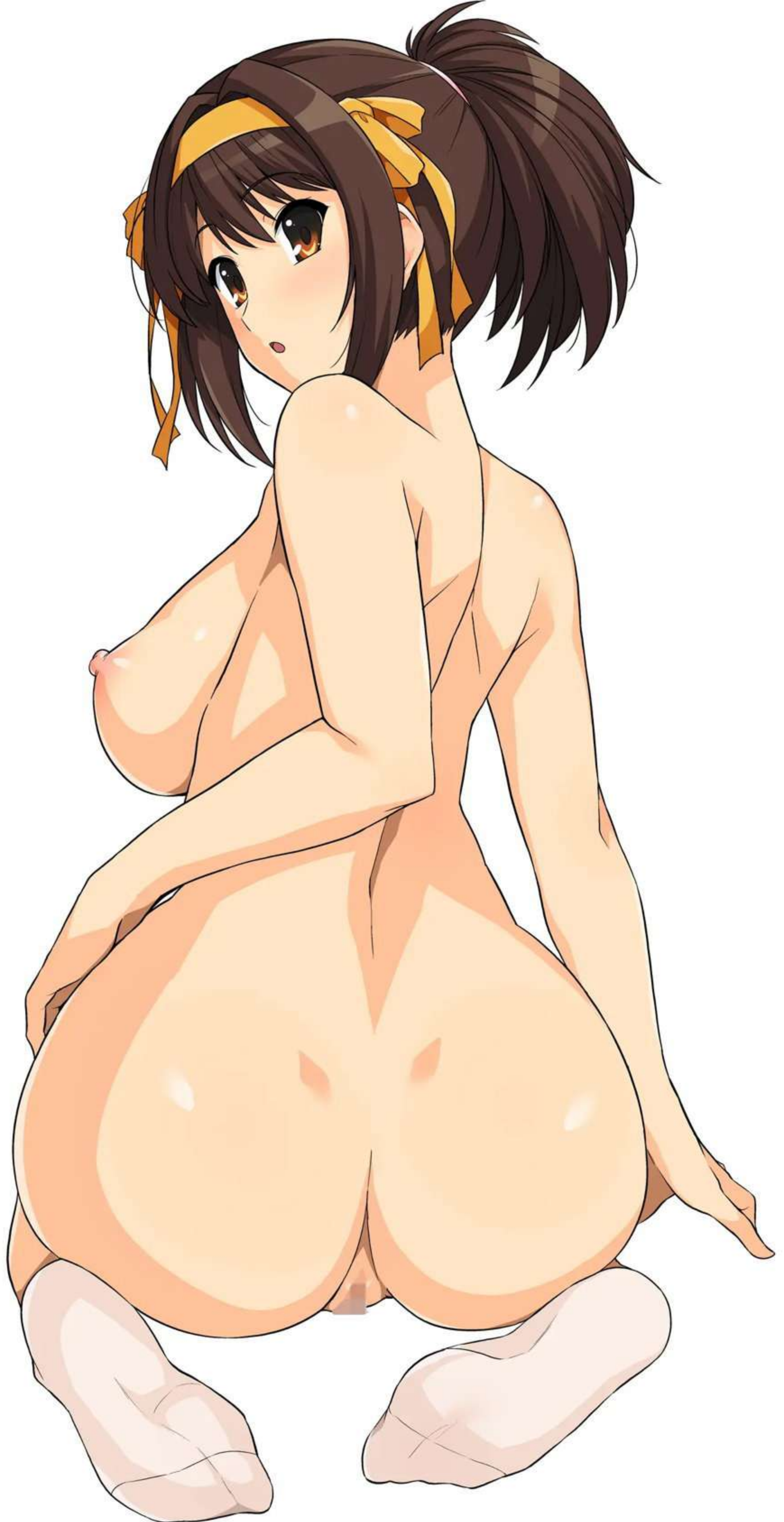








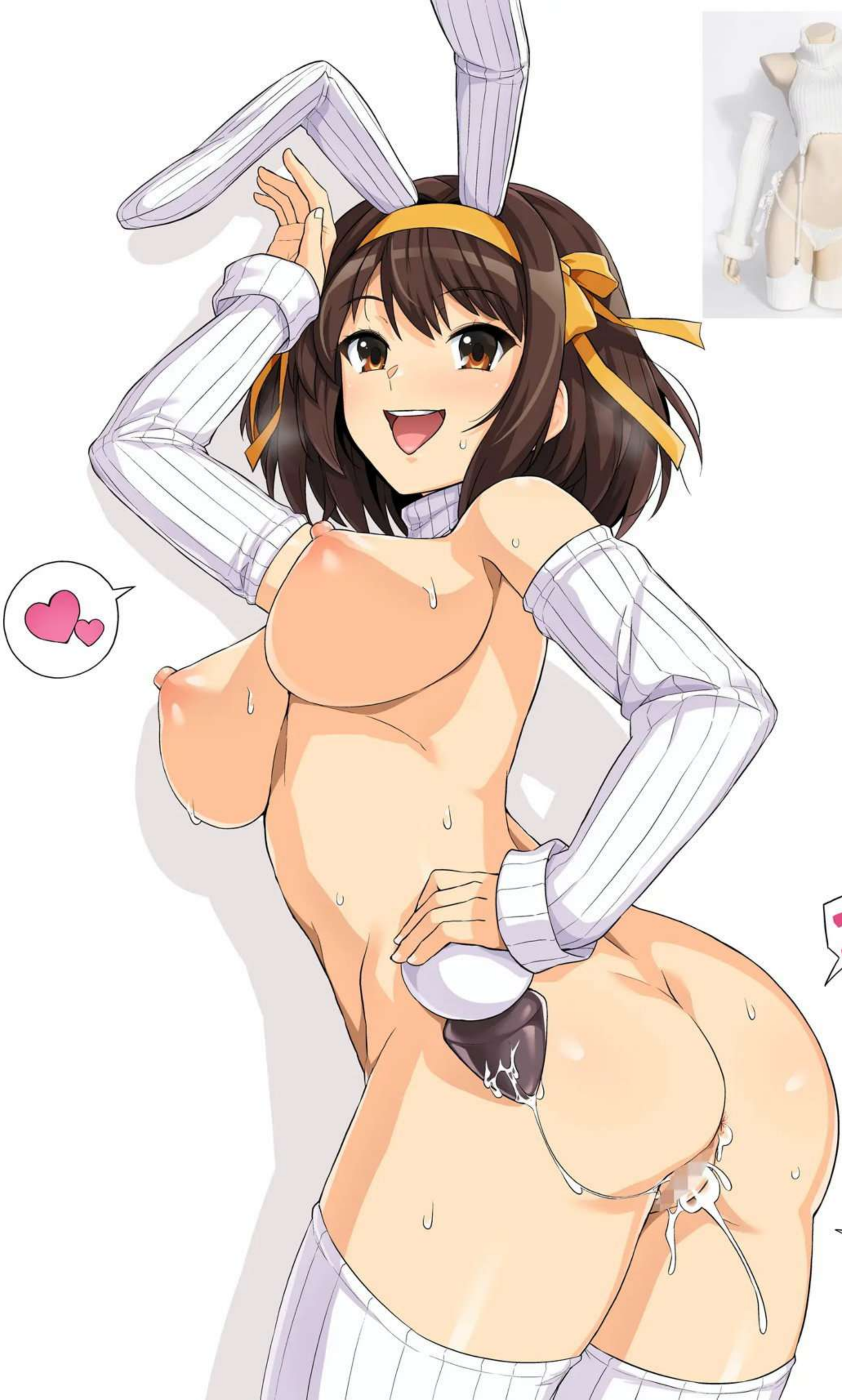












可愛い♡

♡可愛い



おっぱい



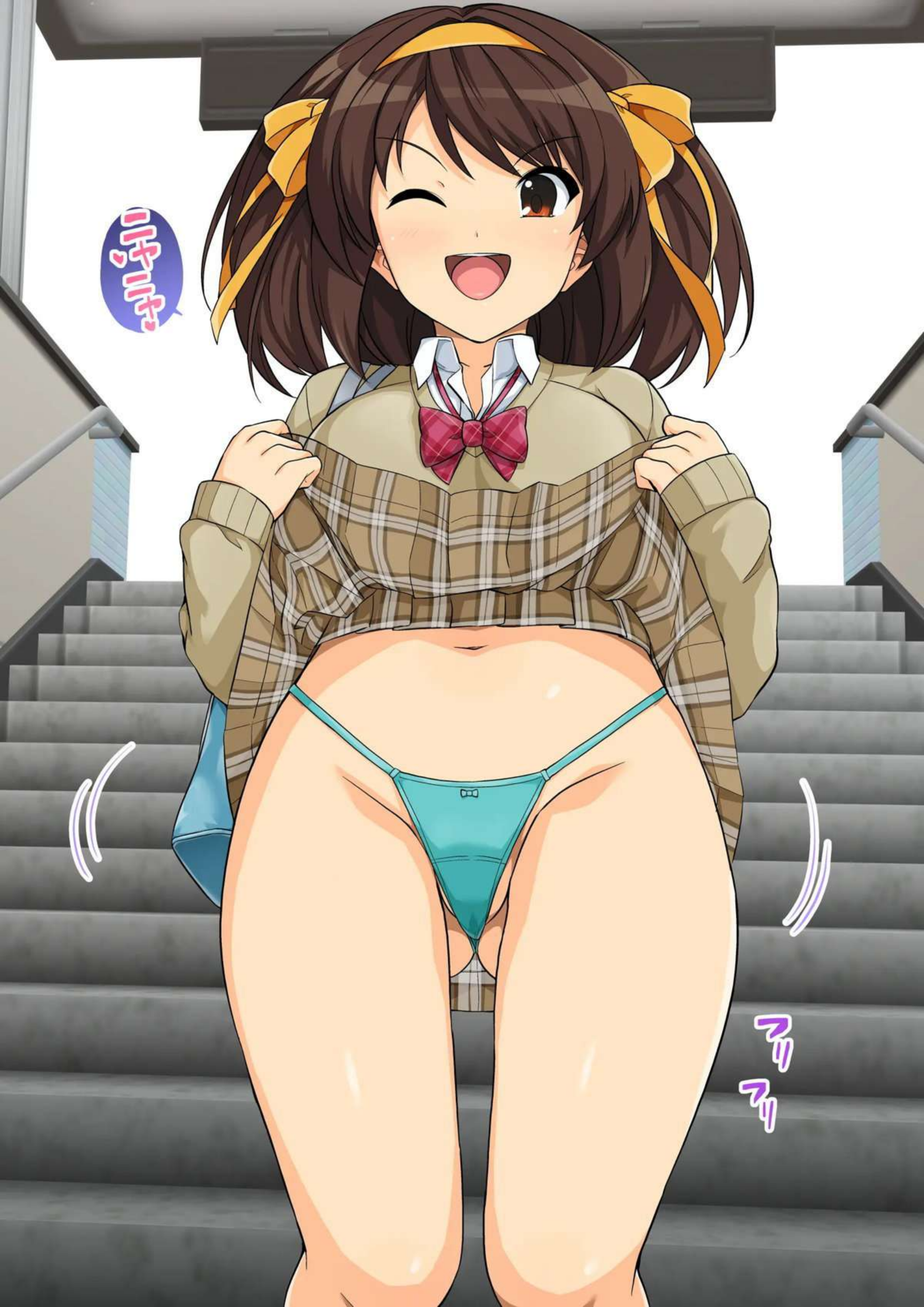
キラキラ  
キラキラ

アハハ

アハハ

アハハ

アハハ  
アハハ



ひびき

ひびき







正々  
正々

No...

ズルッ

ドキッ ドキッ

ドキッ

ドキッ...





また  
ふた





パチパチ

パチ  
ツ

555





ムリッ

ムリッ

ムリッ

ムリッ









ん

んん



アッ





!!!

カニャ

カニャ



ズ  
ズ

ムラ ムラ

ムラ

カ  
ミ  
ヤ

カ  
ミ  
ヤ









ドキ

ドキ

ムラ ムラ

ムラ

ムラ

カシヤ

カシヤ



ドキ、

ドキ、



カシャ

カシャ



むら むら むら むら

へっ

ふん  
ふん

ムラ  
ムラ

ムラ  
ムラ



んんん  
んんん  
♡

+

んんん  
んんん  
んんん

んんん  
んんん  
♡



ぐわ

ぐわ

ぐわ

ぐら

ぐら

ぐら

ぐら



おっぱい大好き

はっ

はっ

おっぱい

おっぱい

おっぱい









キス  
キス

キス  
キス

キス

♡♡

♡♡  
♡♡





あはは

あはは

あはは

あはは

あはは

あはは

あはは

あはは



エエ♡

エエ♡

エエ♡

はっ♡

はっ♡

エエ♡



Yes Yes

Yes Yes Yes

ア

ム

!



可愛♡ 可愛♡

可愛♡

可愛♡

可愛♡

可愛♡

可愛♡



はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

!!?

↖

↘





あはれ

ええ  
ええ

ええ



ドキ、ドキ

ドキ

カシャーン  
カシャーン

ん...  
ん...

カシャーン  
カシャーン



はっ♡

はっ♡

ばちん♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡





フキ

フキ

フキ

フキ

フキ







下キ♡

下キ♡

ムラ♡

ムラ♡

下キ♡

ムラ♡  
ムラ♡  
ムラ♡

ムラ♡





さっしゅ  
さっしゅ

あはは

さっしゅ

さっしゅ

さっしゅ

さっしゅ

さっしゅ

さっしゅ



びしょびしょ

びしょびしょ

びしょびしょ

あっほ

びしょびしょ

お尻

びしょびしょ

びしょびしょ

びしょびしょ

びしょびしょ

びしょびしょ

びしょびしょ



おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん  
おん  
おん

おん  
おん  
おん



おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん





あははは

あ

お

ん

あ





あー

あー

あー

パツパツ

パツパツ

パツパツ

パツパツ

パツパツ







気持ちいい

あ

あ

あ

あ

気持ちいい

気持ちいい

気持ちいい

気持ちいい





はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ





ちんぽん  
きたあ

あっ  
キタあ

110/14

ズコ  
ズコ

ズコ  
ズコ

110/14



あゝ

あゝ

あゝ

ほん

ほん

ズツ

ほん



おっ.

おっ

おっ.

おっ





おっぱい

あ

ん

グッ



あゝ

あゝ

あゝあゝあゝ

あゝ

あゝ





たっか

たっか

接

んん

んん

気持ちいい

んん

んん



あーん  
あーん  
あーん  
あーん  
あーん

あーん

あーん

あーん

あーん

あーん

あーん



♡♡♡♡♡

あっ♡

どほっ

んんん

んんん

んんん



fruit

SWE

SWE

SWE

SWE









おじさん専用  
・おまんこ



おじさん専用  
おまんこ

カメラ

おじさん専用  
おまんこ



おじさん専用  
おまんこ

























































